

2021年度

リハビリテーション科学研究科  
リハビリテーション科学専攻  
シラバス

<u>科目名</u>	<u>科目担当代表教員</u>	<u>ページ数</u>
リハビリテーション科学特論	木村 一志	1
生命科学特論	木村 一志	3
公衆衛生学特論	佐々木 幸子	5
研究倫理特論	橘内 勇	7
プレゼンテーション技法	田邊 芳恵	9
保健福祉政策論	田邊 芳恵	11
数理統計学特論/医療統計学特論	松岡 審爾	13
リハビリテーション管理学特論	橘内 勇	16
病態生理学特論	瀧山 晃弘	18
病態生理学特論演習	瀧山 晃弘	20
神経生理学特論	木村 一志	22
神経生理学特論演習	木村 一志	24
身体機能解析学特論	田邊 芳恵	26
身体機能解析学演習	田邊 芳恵	28
運動器障害学特論	金子 翔拓	30
運動器障害学特論演習	金子 翔拓	32
上肢作業機能回復学特論	白戸 力弥	34
上肢作業機能回復学特論演習	白戸 力弥	36
神経障害学特論	横井 裕一郎	38
神経障害学特論演習	横井 裕一郎	40
高齢者リハビリテーション学特論	佐々木 幸子	42
高齢者リハビリテーション学特論演習	佐々木 幸子	44
ヘルスポモーション学特論	野田 美保子	46
ヘルスポモーション学特論演習	野田 美保子	48
職業リハビリテーション学特論	大川 浩子	50
職業リハビリテーション学特論演習	大川 浩子	52
心身統合健康科学特論	渡辺 明日香	54
心身統合健康科学特論演習	渡辺 明日香	56
リハビリテーション科学特別研究	木村 一志	58
リハビリテーション科学特別研究	木村 一志	60

科目名		ナンバリング	単位	配当年次	開講期
250000R1		リハビリテーション科学特論	5200	2	1 前期
教員氏名	木村 一志、大川 浩子、横井 裕一郎、渡辺 明日香、佐々木 幸子、高田 雄一、田邊 芳恵、金子 翔拓、白戸 力弥、村上 優衣、佐藤 明紀、野田 美保子、小林 英司、瀧山 晃弘				
授業の位置づけ	リハビリテーション分野に関わる地域や時代のニーズを的確に把握し、幅広い視野を獲得するための科目である。リハビリテーション分野に関する各専門の知識を獲得するための科目である。各専門科目の基礎となる。				
授業の概要	リハビリテーション医療の中核をなす理学療法や作業療法においては近年EBM (evidence based medicine) が強く求められている。このためリハビリテーション医療分野における基礎医学である生理学分野、臨床応用分野及び健康増進分野の最新動向を学習し、リハビリテーション医療や福祉分野における高度専門職業人としての必須の知識と研究方法を理解する。				
到達目標	以下の3点について概説できる。 1. 専門基礎分野におけるEBM (evidence based medicine) の必要性和現状の問題点を説明できる。 2. 臨床応用分野における EBM (evidence based medicine) の必要性和現状の問題点を説明できる。 3. 健康増進分野におけるEBM (evidence based medicine) の必要性和現状の問題点を説明できる。				
授業の方法	パワーポイントや配布印刷物を活用しながら、講義形式あるいはゼミ形式で進める。対面あるいはオンラインで行う。(どちらで行うかは担当教員に確認すること。)				
ICT活用	なし				
実務経験のある教員の教育内容	木村は該当なし。瀧山は医師として、田邊、横井、高田、佐々木、佐藤、小林は理学療法士として、大川、渡辺、白戸、金子、村上、野田は作業療法士として、勤務した経験を活かして、それぞれの専門分野について授業を行う。				
課題に対するフィードバックの方法	講義ごとに出されたテーマや課題に対して討論を行い、得られた知識の確認を行う。提出されたレポートに対して、不足があれば、補足説明を行う。				
授業計画	学習内容	準備学習および必要時間(分)	事後学習および必要時間(分)		
1	神経生理学分野における最近の研究と課題 1 (木村一志)	なし	講義で紹介した文献と配布した資料を復習すること。(180分)		
2	身体機能解析学分野における最近の研究と課題1 (田邊)	なし	講義で使用した文献のまとめを復習すること。(180分)		
3	高齢者リハビリテーション学分野における最近の研究と課題1 (佐々木幸子)	なし	講義で紹介した文献を復習すること。(180分)		
4	高齢者リハビリテーション学分野における最近の研究と課題2 (小林英司)	なし	講義で紹介した文献と配布した資料を復習すること。(180分)		
5	身体機能解析学分野における最近の研究と課題2 (佐藤明紀)	なし	講義で紹介した文献と配布した資料を復習すること。(180分)		
6	神経生理学分野における最近の研究と課題 2 (木村一志)	なし	講義で紹介した文献と配布した資料を復習すること。(180分)		
7	運動器障害学分野における最近の研究と課題 (高田雄一)	なし	講義で紹介した文献と配布した資料を復習すること。(180分)		
8	心身統合健康科学分野における最近の研究と課題(渡辺明日香)	なし	講義で紹介した文献と配布した資料を復習すること。(180分)		
9	職業リハビリテーション学分野における最近の研究と課題(大川浩子)	なし	講義で紹介した文献と配布した資料を復習すること。(180分)		
10	神経障害学と発達障害学分野における最近の研究と課題 (横井裕一郎)	なし	講義で紹介した文献と配布した資料を復習すること。(180分)		
11	上肢運動器障害学分野における最近の研究と課題 1(白戸力弥)	なし	講義で紹介した文献と配布した資料を復習すること。(180分)		
12	神経障害学分野における最近の研究と課題 (村上優衣)	なし	講義で紹介した文献と配布した資料を復習すること。(180分)		
13	上肢運動器障害学分野における最近の研究と課題 2(金子翔拓)	なし	講義で紹介した文献と配布した資料を復習すること。(180分)		
14	病態生理学分野の最近の研究と課題 (瀧山晃弘)	なし	講義で紹介した文献と配布した資料を復習すること。(180分)		

15	ヘルスプロモーション学分野における最近の研究と課題（野田美保子）	なし	講義で紹介した文献と配布した資料を復習すること。（180分）
----	----------------------------------	----	--------------------------------

成績評価の方法		
区分	割合（％）	内容
定期試験	0	
定期試験以外（授業内の課題・参加度・出席態度等）	100	レポートや授業中の討論への積極的な参加など；100%
その他	0	

教科書	特に定めない
参考文献	適宜、文献、参考資料などを配布する。
履修条件・留意事項等	特になし
備考欄	

科目名		ナンバリング	単位	配当年次	開講期
250250R1 生命科学特論		5100	1	1	前期
教員氏名	木村 一志				
授業の位置づけ	リハビリテーション分野に関する専門的知識を身につけるための科目である。「神経生理学特論」「病態生理学特論」の基礎となる。				
授業の概要	遺伝子や細胞を基盤とする様々な生命現象を理解し、疾患、障害やリハビリテーションの背景となる人体の仕組みを分子・細胞・組織・臓器・個体レベルで学修する。				
到達目標	細胞の構造、細胞を構成する物質とその役割について理解し、説明できる。 細胞が行う代謝、遺伝子発現、シグナル伝達や増殖・発生について理解し、説明できる。 免疫、がん、遺伝病について理解し、説明できる。				
授業の方法	オンラインで行う。パワーポイント、配布資料を活用しながら、教科書の輪読、解説を講義あるいはゼミ形式で行う。				
ICT活用	なし				
実務経験のある教員の教育内容	該当なし				
課題に対するフィードバックの方法	事前学習した講義関連項目について不足分を含め解説する。 提出されたレポートに対して、不足があれば、補足説明を行う。				
授業計画	学習内容	準備学習および必要時間(分)	事後学習および必要時間(分)		
1	生命科学の基本概念－生命を構成する物質、細胞、恒常性について理解する。	教科書1-3章までを学習すること。(90分)	授業で紹介した文献、配布資料を事後学習すること。(90分)		
2	生命現象の仕組み1-タンパク質、核酸、遺伝子発現について理解する。	教科書4-6章を学習すること。	授業で紹介した文献、配布資料を事後学習すること。(90分)		
3	生命現象の仕組み2-生体膜、代謝、バイオテクノロジーについて理解する。	教科書8-10章を学習すること。(90分)	授業で紹介した文献、配布資料を事後学習すること。(90分)		
4	生命現象の仕組み3-、細胞内輸送、細胞骨格、細胞のシグナル伝達について理解する。	教科書12-15章を学習すること。(90分)	授業で紹介した文献、配布資料を事後学習すること。(90分)		
5	生命現象の仕組み4-神経細胞、細胞周期、動物の発生、遺伝子発現の制御について理解する。	教科書16-18、20章を学習すること。(90分)	授業内容や配布資料について事後学習すること。(90分)		
6	疾患の生命科学1-遺伝と遺伝病について理解する。	教科書7章および遺伝病の種類と特徴について調べておくこと。(90分)	授業内容や配布資料について事後学習し、整理すること。(90分)		
7	疾患の生命科学2-免疫機構と免疫疾患について理解する。	教科書23章および免疫疾患の種類と特徴を調べておくこと。(90分)	授業内容や配布資料について事後学習し、整理すること。(90分)		
8	疾患の生命科学3-細胞の増殖および制御とがんについて理解する。	教科書17章の復習および24章を事前学習しておくこと。(90分)	授業内容や配布資料について事後学習し、整理すること。(90分)		
9	なし	なし	なし		
10	なし	なし	なし		
11	なし	なし	なし		
12	なし	なし	なし		
13	なし	なし	なし		
14	なし	なし	なし		
15	なし	なし	なし		

成績評価の方法		
区分	割合 (%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外 (授業内の課題・参加度・出席態度等)	100	レポートと事前学習の発表内容など
その他	0	

教科書	理系総合のための生命科学第4版、東京大学生命科学教科書編集委員会編、羊土社
参考文献	適宜、分献、参考資料などを紹介または配布する。

履修条件・留意 事項等	「神経生理学特論」を履修する場合は必ず、本科目を履修すること。
備考欄	

科目名		ナンバリング	単位	配当年次	開講期
250030R1 公衆衛生学特論		5210	2	1	後期
教員氏名	佐々木 幸子				
授業の位置づけ	公衆衛生学の基本的研究方法である疫学研究方法論について、体系的に学習するための科目である。「医療統計学特論」、「研究倫理特論」、「リハビリテーション科学特別研究」と関連する。				
授業の概要	授業の前半では、疫学で用いられる基本的指標、研究デザインの分類と特徴、各種バイアスといった疫学の基礎について概説する。特に運動疫学の観点から疾病予防、健康増進のために必要な知識と考え方、方法論について理解する。授業の後半では疫学的研究論文を批判的に精読する技法を学び、疫学研究立案の体系について学習する。				
到達目標	公衆衛生学の基本的研究方法である、疫学の特徴、調査研究の進め方を説明できる。 研究論文を批判的に吟味することができる。 研究テーマに適切な研究デザインを計画、立案することができる。				
授業の方法	講義の場合は主に指定教科書を使用して進める。 講義中に課題を提示した場合は、次回授業で学生が課題内容についてプレゼンテーションを行う。 論文抄読の場合は事前に論文を配布し、内容をまとめたものを担当学生が発表する。				
ICT活用	なし				
実務経験のある教員の教育内容	該当なし				
課題に対するフィードバックの方法	フィードバックとして発表課題にコメントを付して返却する。				
授業計画	学習内容	準備学習および必要時間(分)	事後学習および必要時間(分)		
1	今日の疫学的考えの位置づけと疫学的手法の概要について理解する。	指定教科書の第1章を事前に読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめる。(90分)		
2	研究デザイン：疫学研究の分類、各手法の利点と欠点について学ぶ。	指定教科書の第11章を事前に読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめる。(90分)		
3	文献検索：文献検索の意義と具体的手法について学ぶ。	事前に配布した資料を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめる。(90分)		
4	対象者のサンプリング：研究対象者のサンプリング及びサンプルサイズの算定について学ぶ。	指定教科書の第3、6章を事前に読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめる。(90分)		
5	データの信頼性、妥当性について学ぶ。	指定教科書の第4章を事前に読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめる。(90分)		
6	疫学研究における各種バイアスについて学ぶ。	指定教科書の第9章を事前に読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめる。(90分)		
7	研究倫理：研究の倫理規範、人を対象とした医学系研究に関する倫理指針の主な規制点について学ぶ。	事前に配布した論文を読んでおくこと(90分)	授業内容についてノートにまとめる。(90分)		
8	統計技法：基本的な統計技法とその選択について学ぶ。	事前に配布した資料を読んでおくこと。(90分)	指定した論文を読み、チェックシートに沿って発表用にまとめる。(90分)		
9	論文の批判的吟味。疫学研究論文の批判的吟味の考え方と方法を学ぶ。	指定した論文を読み、チェックシートに沿って発表用にまとめる。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)		
10	論文の抄読-1 当番の学生が指定の論文について解説する。	事前に配布された論文を読み、チェックシートに沿ってまとめる。(90分)	事前に配布された論文を読み、チェックシートに沿ってまとめる。(90分)		
11	論文の抄読-2 当番の学生が指定の論文について解説する。	事前に配布された論文を読み、チェックシートに沿ってまとめる。(90分)	事前に配布された論文を読み、チェックシートに沿ってまとめる。(90分)		
12	論文の抄読-3 当番の学生が指定の論文について解説する。	事前に配布された論文を読み、チェックシートに沿ってまとめる。(90分)	事前に配布された論文を読み、チェックシートに沿ってまとめる。(90分)		
13	論文の抄読-4 当番の学生が指定の論文について解説する。	事前に配布された論文を読み、チェックシートに沿ってまとめる。(90分)	研究計画の立案と発表用資料の作成。		
14	疫学研究計画立案：具体的な研究計画の立案手法を学び、実際の計画の立案を行う。	研究計画の立案と発表用資料の作成。	研究計画の立案と発表用資料の作成。		
15	疫学研究計画立案：発表を行う。	研究計画の立案と発表用資料の作成。	課題発表時に指摘された部分について修正を行う。(90分)		

成績評価の方法		
区分	割合 (%)	内容

定期試験	0	定期試験は行わない。
定期試験以外（授業内の課題・参加度・出席態度等）	100	授業時質疑応答と発表課題で評価する。
その他	0	なし

教科書	医学的研究のデザイン 第4版/木原雅子他訳/メディカルサイエンスインターナショナル	
参考文献	ロスマンの疫学 第2版/Kenneth J. Rothman/篠原出版社	
履修条件・留意事項等	特になし。	
備考欄		



科目名		ナンバリング	単位	配当年次	開講期
250240R1 研究倫理特論		5110	1	1	前期
教員氏名	橋内 勇				
授業の位置づけ	研究倫理に基づく研究活動を通して、リハビリテーション分野に関する各専門の知識と技術をもって、職場や地域社会に貢献することができる。				
授業の概要	人を対象とする研究において、研究対象者（被験者）への適切な配慮ができることが不可欠である。また、昨今、研究不正行為が次々と明らかになり、研究者の社会的信用が危機に瀕している。このような状況の中、すべての研究に従事する者は、研究倫理を身に付けることが社会的に求められている。この授業では、人を対象とするリハビリテーション部門の研究に必要な研究倫理について学修する。				
到達目標	研究倫理に関する基本的理解を獲得する。 リハビリテーション部門における医療の質を高めるための研究倫理教育の立案ができる。				
授業の方法	オンライン授業で実施する。 各回ともアクティブラーニング形式で、定されたテーマに対し、事前に文献に目を通し、それに基づき各自の考えを発表する。				
ICT活用	なし。				
実務経験のある教員の教育内容	病院での理学療法士としての勤務経験を活かし授業を行う。				
課題に対するフィードバックの方法	オンラインを用いて出された課題について講評する。				
授業計画	学習内容	準備学習および必要時間(分)	事後学習および必要時間(分)		
1	人を対象とする医学・生命科学の歴史と国際的な研究倫理の誕生まで	シラバスを参照し事前学習を行うこと(90分)。	講義で紹介した文献にはよく目を通すこと(90分)。		
2	人の身体に由来する試料を用いた研究の倫理（「人体」の法的規制、提供者からの同意取得等）	講義で紹介した文献にはよく目を通すこと(90分)。	講義で紹介した文献にはよく目を通すこと(90分)。		
3	日本における倫理ルールの枠組み（倫理的規制の経緯と特徴、倫理指針違反の事例等）	講義で紹介した文献にはよく目を通すこと(90分)。	講義で紹介した文献にはよく目を通すこと(90分)。		
4	調査研究に伴う倫理的配慮（疫学研究に関するガイドライン、調査研究における被害の特徴等）	講義で紹介した文献にはよく目を通すこと(90分)。	講義で紹介した文献にはよく目を通すこと(90分)。		
5	臨床試験を倫理的に行うために（臨床試験のプロセスと倫理的規制）	講義で紹介した文献にはよく目を通すこと(90分)。	講義で紹介した文献にはよく目を通すこと(90分)。		
6	研究者としての倫理（研究成果の共有、研究成果の発表、実験終了後のデータの取り扱い等）	講義で紹介した文献にはよく目を通すこと(90分)。	講義で紹介した文献にはよく目を通すこと(90分)。		
7	研究発表の倫理と不正（典型的な不正、オーサーシップ、多重・分割投稿、不正防止の対応）	講義で紹介した文献にはよく目を通すこと(90分)。	講義で紹介した文献にはよく目を通すこと(90分)。		
8	医学研究の信頼性と利益相反（研究資金と契約、利益相反の制度的管理と自主的管理）	講義で紹介した文献にはよく目を通すこと(90分)。	講義で紹介した文献にはよく目を通すこと(90分)。		
9	なし	なし	なし		
10	なし	なし	なし		
11	なし	なし	なし		
12	なし	なし	なし		
13	なし	なし	なし		
14	なし	なし	なし		
15	なし	なし	なし		

成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない。
定期試験以外（授業内の課題・参加度・出席態度等）	60	授業毎の出欠確認課題で評価する。
その他	40	日本学術振興会の研究倫理e-ラーニングコース（大学院生向けコース、無料）を受講し、その修了書の写しを6月末日までに提出すること。

教科書	使用しない。
参考文献	必要に応じてPDFにした資料を送るので確認すること。

履修条件・留意 事項等	特になし
備考欄	

科目名		ナンバリング	単位	配当年次	開講期
250050R1	プレゼンテーション技法	5120		2カリキュラムにより異なります。	前期
教員氏名	田邊 芳恵				
授業の位置づけ	研究成果を分かりやすく伝える方法を学び、他職種との協働や地域社会への貢献および指導的な役割を果たすことを目指す科目である。リハビリテーション科学特別研究での研究計画発表や修士論文発表と関連する。				
授業の概要	自己の研究について専門外の人にも分かるよう、写真、図、表などを用いて視覚的効果のあるプレゼンテーション方法を学修する。また、日本語および英語によるプレゼンテーションについても経験する。				
到達目標	自己の研究を簡潔にまとめることができる。 学会発表を想定し、写真、図、表を用いて視覚的効果のあるプレゼンテーションを日本語および英語で行うことができる。				
授業の方法	各講義毎の課題で作成した資料やパワーポイントを用い、学生中心のディスカッションを交えた講義形式とする。				
ICT活用	必要に応じてGoogle Meetを用いた双方向授業を取り入れる。				
実務経験のある教員の教育内容	30年以上の臨床研究および学会や論文での発表経験があり、理学療法学に関する専門誌や学会の査読委員、また、学会等の座長の経験も有している。この経験を活かして、聞き手に伝わる効果的なプレゼンテーションについて講義を行う。				
課題に対するフィードバックの方法	講義中に行うディスカッションで理解を深め、必要に応じて補足説明を行う。				
授業計画	学習内容	準備学習および必要時間(分)	事後学習および必要時間(分)		
1	プレゼンテーションの基礎知識。	各自が過去に行ったプレゼンテーション資料を見直しておくこと。(90分)	講義内容についてノートにまとめておくこと。(90分)		
2	既存の学術論文を読み、その要旨をまとめる。	各自、興味のある既存の論文を数編準備すること。(90分)	講義内容についてノートにまとめておくこと。(90分)		
3	既存の学術論文を読み、その要旨を発表する。	前回の講義でまとめた要旨について、発表に際し特筆すべき点を考えておくこと。(90分)	講義内容についてノートにまとめておくこと。(90分)		
4	既存の学術論文を読み、その中で使われている図や表がどの様に効果的なのかを考える。	各自が準備した既存の論文について、図や表がどの様に扱われているのかを考えておくこと。(90分)	講義内容についてノートにまとめておくこと。(90分)		
5	既存の学術論文の中に書かれている結果から、視覚的効果のある図を作成する。	視覚的効果のある図とはどんな図なのかを考えておくこと。(90分)	講義内容についてノートにまとめておくこと。(90分)		
6	既存の学術論文の中に書かれている結果から、視覚的効果のある表を作成する。	視覚的効果のある表とはどんな表なのかを考えておくこと。(90分)	講義内容についてノートにまとめておくこと。(90分)		
7	サマリーシートを用いたプレゼンテーションを行うための準備をする。	過去に経験した抄読会での発表方法についてまとめておくこと。(90分)	講義内容についてノートにまとめておくこと。(90分)		
8	サマリーシートを用いたプレゼンテーションを行い、改善点を考える。	過去に経験した抄読会での発表方法について、改善点の有無を考えておくこと。(90分)	講義内容についてノートにまとめておくこと。(90分)		
9	ポスターを用いたプレゼンテーションを行うための準備をする。	過去に経験したポスター発表の準備や書式についてまとめておくこと。(90分)	講義内容についてノートにまとめておくこと。(90分)		
10	ポスターを用いたプレゼンテーションを行い、改善点を考える。	過去に経験したポスター発表について、改善点の有無を考えておくこと。(90分)	講義内容についてノートにまとめておくこと。(90分)		
11	スライドを用いたプレゼンテーションを行うための準備をする。	過去に経験したスライド発表の準備や書式についてまとめておくこと。(90分)	講義内容についてノートにまとめておくこと。(90分)		
12	スライドを用いたプレゼンテーションを行い、改善点を考える。	過去に経験したスライド発表について、改善点の有無を考えておくこと。(90分)	講義内容についてノートにまとめておくこと。(90分)		
13	自己の研究テーマについて日本語でプレゼンテーションする。	日本語でのプレゼンテーション内容を10分程度で出来るようにまとめておくこと。(90分)	講義内容についてノートにまとめておくこと。(90分)		

14	自己の研究テーマについて英語でプレゼンテーションする。	英語でのプレゼンテーション内容を10分程度で出来るようにまとめておくこと。(90分)	講義内容についてノートにまとめておくこと。(90分)
15	まとめ聞き手に分かりやすいプレゼンテーションについて再度、確認する。	本科目のこれまでの内容を見直しておくこと。(90分)	講義内容についてノートにまとめておくこと。(90分)

成績評価の方法		
区分	割合 (%)	内容
定期試験	0	定期試験は行わない。
定期試験以外 (授業内の課題・参加度・出席態度等)	100	授業中の課題および準備学習の内容で評価する。
その他	0	その他の評価は行わない。

教科書	特に指定しない。必要に応じて資料を配布します。
参考文献	特に指定しない。
履修条件・留意事項等	課題作成や文献検索、スライド作成のため、PC環境を整えておくこと。
備考欄	

科目名		ナンバリング	単位	配当年次	開講期
250060R1	保健福祉政策論	5230		2 カリキュラムにより異なります。	前期
教員氏名	田邊 芳恵				
授業の位置づけ	我が国の医療に対するニーズは少子高齢社会と人口減少社会を迎えていることで常に変化しており、「在宅医療の推進」と「地域包括ケアシステム」の構築が推進されている。リハビリテーション分野に関わる地域や時代のニーズを的確に把握するために「日本の医療政策と地域医療システム」の基礎を学び、各自が所属する医療機関や施設の「役割」について考察する授業である。				
授業の概要	我が国の保健福祉政策は、高齢者人口の急増による年金・福祉・医療・介護等の需要が増大する中、今後どのようなサービスを提供し維持するかが大きな課題となっている。この授業では、我が国の社会保障制度改革の方向性や、諸外国の医療・福祉事情、そして我が国の「地域包括ケアシステム」と「地域リハビリテーション」について理解を深める。具体的には、日本における高齢者人口の急増がもたらす年金・福祉・医療・介護等の諸問題と諸外国の医療・福祉事情について現状を理解し、日本との違いについて考察する。また、「地域包括ケアシステム」や「地域リハビリテーション」において臨床現場で直面する課題や今後の展望について、患者や社会政策上の視点から考察する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 我が国の医療・介護・福祉制度の仕組みについて説明できる</li> <li>2. 我が国と諸外国の医療・介護・福祉制度の違いについて説明できる</li> <li>3. 我が国の医療政策をめぐる課題と社会保障制度改革の方向性について説明できる</li> <li>4. 「地域包括ケアシステム」や「地域リハビリテーション」において直面する課題や今後の展望について説明できる</li> </ol>				
授業の方法	最新の知見や学生それぞれの臨床経験を踏まえたディスカッションを交えながら講義形式で行う。また、必要に応じてゲスト講師を招いてディスカッションを深める。				
ICT活用	必要に応じてGoogle Meetを用いて遠隔授業を行う。				
実務経験のある教員の教育内容	担当者は理学療法士としての臨床経験や地域住民の健康増進に関わる調査経験を活かして本科目を展開する。				
課題に対するフィードバックの方法	講義中のディスカッションを通して理解を深め、必要に応じて補足説明を行う。				
授業計画	学習内容	準備学習および必要時間(分)	事後学習および必要時間(分)		
1	日本の医療制度	講義内容の関連事項について文献をできるだけ多く読み理解を深めておくこと。(90分)	講義内容についてノートにまとめておくこと。(90分)		
2	日本の先進医療	講義内容の関連事項について文献をできるだけ多く読み理解を深めておくこと。(90分)	講義内容についてノートにまとめておくこと。(90分)		
3	海外の医療制度	講義内容の関連事項について文献をできるだけ多く読み理解を深めておくこと。(90分)	講義内容についてノートにまとめておくこと。(90分)		
4	日本の介護保険制度	講義内容の関連事項について文献をできるだけ多く読み理解を深めておくこと。(90分)	講義内容についてノートにまとめておくこと。(90分)		
5	海外の介護保険制度	講義内容の関連事項について文献をできるだけ多く読み理解を深めておくこと。(90分)	講義内容についてノートにまとめておくこと。(90分)		
6	日本の福祉制度	講義内容の関連事項について文献をできるだけ多く読み理解を深めておくこと。(90分)	講義内容についてノートにまとめておくこと。(90分)		
7	海外の福祉制度	講義内容の関連事項について文献をできるだけ多く読み理解を深めておくこと。(90分)	講義内容についてノートにまとめておくこと。(90分)		
8	地域包括ケアシステムの制度概要	講義内容の関連事項について文献をできるだけ多く読み理解を深めておくこと。(90分)	講義内容についてノートにまとめておくこと。(90分)		

9	現状の地域包括ケアシステムの課題とその解決策	講義内容の関連事項について文献をできるだけ多く読み理解を深めておくこと。(90分)	講義内容についてノートにまとめておくこと。(90分)
10	各学生の所属機関におけるリハビリテーションの現状と地域貢献に関する課題とその解決策を議論する(学生が課題を提起する)	講義内容の関連事項について文献をできるだけ多く読み理解を深めておくこと。(90分)	講義内容についてノートにまとめておくこと。(90分)
11	各学生の所属機関におけるリハビリテーションの現状と地域貢献に関する課題とその解決策を議論する(#10とは異なる学生が課題を提起する)	講義内容の関連事項について文献をできるだけ多く読み理解を深めておくこと。(90分)	講義内容についてノートにまとめておくこと。(90分)
12	種々の疾患や病態に対する社会政策について理学療法士・作業療法士の視点で議論する(学生が問題を提起する)	講義内容の関連事項について文献をできるだけ多く読み理解を深めておくこと。(90分)	講義内容についてノートにまとめておくこと。(90分)
13	種々の疾患や病態に対する社会政策について理学療法士・作業療法士の視点で議論する(#12とは異なる学生が問題を提起する)	講義内容の関連事項について文献をできるだけ多く読み理解を深めておくこと。(90分)	講義内容についてノートにまとめておくこと。(90分)
14	種々の疾患や病態に対する今後の社会政策について理学療法士・作業療法士の視点から期待することを議論する(学生が話題を提供する)	講義内容の関連事項について文献をできるだけ多く読み理解を深めておくこと。(90分)	講義内容についてノートにまとめておくこと。(90分)
15	種々の疾患や病態に対する今後の社会政策について理学療法士・作業療法士の視点から期待することを議論する(#14とは異なる学生が話題を提供する)	講義内容の関連事項について文献をできるだけ多く読み理解を深めておくこと。(90分)	講義内容についてノートにまとめておくこと。(90分)

成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)	50	授業内に提示する課題を評価する
その他	50	授業中に行うディスカッションへの参加や発言の内容を評価する

教科書	指定しないが、必要に応じてインターネット検索を指示する
参考文献	指定しないが、インターネットや雑誌等で検索できるようにしておくこと
履修条件・留意事項等	インターネット環境を整えておくこと
備考欄	

科目名		ナンバリング	単位	配当年次	開講期
250070R1	数理統計学特論/医療統計学特論	5130		2カリキュラムにより異なります。	前期
教員氏名	松岡 審爾				
授業の位置づけ	リハビリテーション分野に関する各専門知識の根拠を示すために用いられている統計解析法を修得するための科目である。				
授業の概要	研究で得られた事象に対してある判断を下すときには、統計学の理論を用いた普遍的な判断基準が必要不可欠である。本講義では統計学の主要概念、基礎理論、医療系科学領域の研究に用いられる統計解析方法について学習する。また、研究課題に適した統計解析方法を選択し、統計解析ソフトを駆使して分析し、結果を正しく解釈する方法を学習する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. データを適切に取り扱い、データの視覚化や要約統計量の計算ができる。</li> <li>2. 統計的推測に必要な確率論と基本的な確率分布、および統計的推定、仮説検定の基礎を理解できる。</li> <li>3. さまざまな課題に適した統計解析法を選択できる。</li> <li>4. 統計ソフトを用いて統計解析を適切に行うことができ、その結果を正しく解釈することができる。</li> </ol>				
授業の方法	リアルタイムでオンライン授業を行う。パワーポイントと配布印刷物を使用して質疑応答をまじえながら講義形式で行う。4回目以降は統計ソフト（R）を使用する実技も行う。				
ICT活用	Google Meetにより講義内容を収録し、復習できるようにする。				
実務経験のある教員の教育内容	該当なし				
課題に対するフィードバックの方法	提出物に対するコメントを返す。				
授業計画	学習内容	準備学習および必要時間(分)	事後学習および必要時間(分)		
1	【統計の基礎①】・データを測る尺度を理解する。 ・データの様子を把握するための手法である記述統計（度数分布、代表値、散布度）について学ぶ。 ・確率変数と確率分布を理解する。	記述統計についてあらかじめ調べておく（90分）。	ふりかえりシートを作成する。課題を解く（90分）。		
2	【統計の基礎②】・標本から母集団の母数（母平均、母分散など）を予測する手法である統計的推定について理解する。ここでは母平均、母分散の点推定を学んだのち、標本平均の分布、標本分散と不偏分散との違いを理解する。	点推定、標本平均の分布、および標本分散と不偏分散についてあらかじめ調べておく（90分）。	ふりかえりシートを作成する。課題を解く（90分）。		
3	【統計の基礎③】 統計的推定における母平均や母分散の区間推定について理解する。主張したい仮説を検定する手法である統計的検定の考え方を学ぶ。	区間推定、統計的検定についてあらかじめ調べておく（90分）。	ふりかえりシートを作成する。課題を解く（90分）。		
4	【関連2群の差の検定】 関連2群の比較を行うために必要な検定（正規性の検定、及びパラメトリック検定とノンパラメトリック検定の関連2群の差の検定）の概要を理解する。また、統計ソフトRを用いて実際にこれらの分析を行う方法を習得する。	関連2群の差の検定についてあらかじめ調べておく（90分）。	ふりかえりシートを作成する。学習した統計解析法について統計ソフトを用いて分析する課題を作成する（90分）。		
5	【独立2群の差の検定】 独立2群の比較を行うために必要な検定（等分散性の検定、及びパラメトリック検定とノンパラメトリック検定の独立2群の差の検定）の概要を理解する。また、統計ソフトRを用いて実際にこれらの分析を行う方法を習得する。	独立2群の差の検定についてあらかじめ調べておく（90分）。	ふりかえりシートを作成する。学習した統計解析法について統計ソフトを用いて分析する課題を作成する（90分）。		
6	【2変数の関連の強さ】 2つの変数の間の関連の強さを大小関係にもとづいて求める相関係数について理解する。また、2つの変数の大小関係のみならず、値そのものの一致度である級内相関係数、カッパ係数について理解する。また、統計ソフトRを用いて実際にこれらの分析を行う方法を習得する。	相関係数についてあらかじめ調べておく（90分）。	ふりかえりシートを作成する。学習した統計解析法について統計ソフトを用いて分析する課題を作成する（90分）。		
7	【効果量と検定力分析】 近年、帰無仮説検定のみに依存した従来の統計手法から効果量を重視する方向での統計改革が起きている。効果量とはなにかを概説し、2群の差の検定における効果量を理解する。また、効果量をもとにして検出力や標本サイズの算出を行う検定力分析について学ぶ。また、統計ソフト（R、G Power）を用いて実際にこれらの分析を行う方法を習得する。	効果量と検定力についてあらかじめ調べておく（90分）。	ふりかえりシートを作成する。学習した統計解析法について統計ソフトを用いて分析する課題を作成する（90分）。		

8	【1要因の多群間の比較】1要因の多群の比較を行うための検定を関連がないデザインと関連があるデザイン（反復測定）について学ぶ。また、多重比較の考え方、多重比較における様々な手法について学ぶ。また、統計ソフトRを用いて実際にこれらの分析を行う方法を習得する。さらに、反復測定における研究デザインについて理解する。	1要因の多群間の比較についてあらかじめ調べておく(90分)。	ふりかえりシートを作成する。学習した統計解析法について統計ソフトを用いて分析する課題を作成する(90分)。
9	【有意水準の調整法】反復測定された要因の多重比較では、関連のないデザイン時のような多重比較法が適用できないため、有意水準を調整して2群間の検定を行う必要がある。ここでは様々な有意水準の調整法を学ぶ。 【2要因の計画と分散分析①】2要因とも独立な場合の繰り返しのある二元配置分散分析について主効果検定、交互作用、単純主効果検定、多重比較について学ぶ。また、分散分析における効果量についても学ぶ。また、統計ソフトRを用いて実際にこれらの分析を行う方法を習得する。	有意水準の調整法、2要因とも独立な場合の比較についてあらかじめ調べておく(90分)。	ふりかえりシートを作成する。学習した統計解析法について統計ソフトを用いて分析する課題を作成する(90分)。
10	【2要因の計画と分散分析②】1要因が反復測定の二元配置分散分析および2要因とも反復測定の二元配置分散について主効果検定、交互作用、単純主効果検定、多重比較について学ぶ。また、分散分析における効果量についても学ぶ。また、統計ソフトRを用いて実際にこれらの分析を行う方法を習得する。さらに研究デザインにおける偽実験計画と真の実験計画について理解する。	反復測定を含む2要因の比較についてあらかじめ調べておく(90分)。	ふりかえりシートを作成する。学習した統計解析法について統計ソフトを用いて分析する課題を作成する(90分)。
11	【出現頻度の比較（分割表の検定）】2つの名義尺度で各要因が2分類されているとき要因間の関連の有無を度数から調べる2×2分割表の検定（カイ2乗検定、フィッシャーの直接確率法、マクニマー検定）について学ぶ。また、名義尺度または順序尺度の2要因（変数）で少なくとも1つの要因が3分類以上のとき変数間の関連の有無を度数から調べるm×n分割表の検定についても学ぶ。また、統計ソフトRを用いて実際にこれらの分析を行う方法を習得する。	分割表の検定についてあらかじめ調べておく(90分)。	ふりかえりシートを作成する。学習した統計解析法について統計ソフトを用いて分析する課題を作成する(90分)。
12	【多変量解析①重回帰分析】重回帰について理解する。次に、ある量的な従属変数に対して複数の独立変数の影響の度合いを解析したり、独立変数から従属変数を求める予測式を求める方法である重回帰分析および分析の注意点について学ぶ。また、統計ソフトRを用いて実際にこれらの分析を行う方法を習得する。	重回帰分析についてあらかじめ調べておく(90分)。	ふりかえりシートを作成する。学習した統計解析法について統計ソフトを用いて分析する課題を作成する(90分)。
13	【多変量解析②多重ロジスティック回帰分析】従属変数がYesかNoか等の質的な変数に対して、複数の独立変数の影響の度合いを解析したり、独立変数から従属変数を求める予測式を求める方法である多重ロジスティック回帰分析および分析の注意点について学ぶ。また、統計ソフトRを用いて実際にこれらの分析を行う方法を習得する。	多重ロジスティック回帰分析についてあらかじめ調べておく(90分)。	ふりかえりシートを作成する。学習した統計解析法について統計ソフトを用いて分析する課題を作成する(90分)。
14	【多変量解析③主成分分析】調査・測定によって得られた複数の変数をなるべく少数の合成変数に統合して表し、統合された変数の解釈や個々の個体の特徴を評価する分析法である主成分分析を学ぶ。また、統計ソフトRを用いて実際にこれらの分析を行う方法を習得する。	主成分分析についてあらかじめ調べておく(90分)。	ふりかえりシートを作成する。学習した統計解析法について統計ソフトを用いて分析する課題を作成する(90分)。
15	【多変量解析④因子分析】調査・測定によって得られた複数の変数から、その背後にある原因をあぶりだす分析法である因子分析および分析の注意点を学ぶ。また、統計ソフトRを用いて実際にこれらの分析を行う方法を習得する。	因子分析についてあらかじめ調べておく(90分)。	ふりかえりシートを作成する。学習した統計解析法について統計ソフトを用いて分析する課題を作成する(90分)。

成績評価の方法		
区分	割合 (%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外（授業内の課題・参加度・出席態度等）	100	提出された課題の内容により評価する。
その他	0	なし
教科書	特になし	



参考文献	真に役立つ研究のデザインと統計処理／関谷昇／三輪書店 伝えるための心理統計／大久保街垂 他／勁草書房
履修条件・留意事項等	特になし
備考欄	

科目名		ナンバリング	単位	配当年次	開講期
250080R1	リハビリテーション管理学特論	5240		2カリキュラムにより異なります。	前期
教員氏名	橋内 勇				
授業の位置づけ	1. リハビリテーション分野のチームアプローチで、他職種との協働を理解し、中核的あるいは指導的役割を果たすことができるようになるための科目である。 2. リハビリテーション分野に関する地域や時代のニーズを的確に把握し、幅広い視野で柔軟に対応することができる為の科目である。				
授業の概要	患者に安全・安心な医療を提供するには、経営の合理性と臨床的な合理性の両立が必要である。このため昨今、医療現場における経営の視点が重要視され、職種に関わらず医療に携わる者は、それぞれの立場で現場の運営を効率的かつ円滑に遂行することが求められている。効率的な組織運営に不可欠なマネジメントの視点により、医療の質を高めるにはどうしたら良いか、個と集団の関わり、患者中心のチーム医療の重要性等について学ぶ。				
到達目標	医療機関や福祉施設等、組織の中でのチームをまとめる管理者として必要な能力を身につけ実践することができる。				
授業の方法	オンライン授業で実施する。 各回ともアクティブラーニング形式で、指定されたテーマに対し、各自の考えを発表する。				
ICT活用	なし。				
実務経験のある教員の教育内容	理学療法士としての病院勤務及び管理者としての経験を生かし、管理者を目指した授業を展開する。				
課題に対するフィードバックの方法	オンラインを用いて出された課題について講評する。				
授業計画	学習内容	準備学習および必要時間(分)	事後学習および必要時間(分)		
1	オリエンテーション 組織は人で伸びる(人罪・人在・人材・人財)。マズローの欲求段階説・成人の発達段階(加藤洋)の紹介。	シラバスを参照して事前学習をしておくこと(90分)。	講義で紹介した文献にはよく目を通すこと(90分)。		
2	ドラッカーによる管理(マネージメント)とは何か。SWOT分析(Strength: 強味・Weakness: 弱み・Opportunity: 機会・Threat: 脅威)とは何か、その理解と活用。	講義で紹介した文献にはよく目を通すこと(90分)。	講義で紹介した文献にはよく目を通すこと(90分)。		
3	ドラッカーによる「一流の仕事をするプロの教え」より。成果を上げる意思決定の留意点、コミュニケーションの法則と手段。	講義で紹介した文献にはよく目を通すこと(90分)。	講義で紹介した文献にはよく目を通すこと(90分)。		
4	コミュニケーション手法を考える(話し上手と聞き上手)。フォローシップ(リーダーを補佐する機能・能力)を考える。	講義で紹介した文献にはよく目を通すこと(90分)。	講義で紹介した文献にはよく目を通すこと(90分)。		
5	医療の質とは何か。診療の質、設備・機器の質、付帯サービスの質、提供体制の質、経済性の質を考える。	講義で紹介した文献にはよく目を通すこと(90分)。	講義で紹介した文献にはよく目を通すこと(90分)。		
6	リハビリテーション科における管理。量から質への転換。個人の予測力とチームのマネージメント力。自らが成長できることへの支援とは等について考える。	講義で紹介した文献にはよく目を通すこと(90分)。	講義で紹介した文献にはよく目を通すこと(90分)。		
7	リハビリテーション部門における組織化～職員配置と業務の組織化、部門別体制と病棟・疾患別体制、質的管理のための体制づくりを考える。	講義で紹介した文献にはよく目を通すこと(90分)。	講義で紹介した文献にはよく目を通すこと(90分)。		
8	病棟・施設業務管理～①急性期、②回復期、③療養病棟、④訪問・通所系、⑤介護保険施設など。部署内の情報伝達と院内活動への参加など。これらの理解と問題点を考える。	講義で紹介した文献にはよく目を通すこと(90分)。	講義で紹介した文献にはよく目を通すこと(90分)。		
9	人事労務管理(人事計画と職員管理、人事考課制度とその活用、年間計画に基づく個人目標の管理、職場におけるメンタルヘルス等)を考える。	講義で紹介した文献にはよく目を通すこと(90分)。	講義で紹介した文献にはよく目を通すこと(90分)。		
10	リハ部門の教育システム(1)。医療職全体における継続教育を概観し、PT・OT・STが獲得すべき能力についてとくに新人教育について考える。	講義で紹介した文献にはよく目を通すこと(90分)。	講義で紹介した文献にはよく目を通すこと(90分)。		
11	リハ部門の教育システム(2)。中間管理職の育成のための教育を考える。これからの臨床実習(患者担当型から診療参加型実習)について対応方法を考える。	講義で紹介した文献にはよく目を通すこと(90分)。	講義で紹介した文献にはよく目を通すこと(90分)。		

12	リハビリテーション部門におけるリーダーシップとマネジメント、リハ科をリードするために必要なスキル、他部署との関係づくりに何が必要かを考える。	講義で紹介した文献にはよく目を通すこと（90分）。	講義で紹介した文献にはよく目を通すこと（90分）。
13	医療機関におけるリスクマネジメント、リハビリテーション部門における事故対応および苦情対応、リスクマネジメント教育について考える。	講義で紹介した文献にはよく目を通すこと（90分）。	講義で紹介した文献にはよく目を通すこと（90分）。
14	リハビリテーション部門の収益管理と関係法令、医療法人の業務範囲、労働条件、就業規則、働き方関連法案などを考える。	講義で紹介した文献にはよく目を通すこと（90分）。	講義で紹介した文献にはよく目を通すこと（90分）。
15	より質の高いリハビリテーションを提供するために、チームの機能に応じたチームマネジメント、効率的な会議運営について考える。	講義で紹介した文献にはよく目を通すこと（90分）。	講義で紹介した文献にはよく目を通すこと（90分）。

成績評価の方法		
区分	割合（％）	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない。
定期試験以外（授業内の課題・参加度・出席態度等）	100	授業毎における出欠確認課題で評価する。
その他	0	なし。

教科書	特になし。
参考文献	リハビリテーション管理・運営ガイドブック 金谷さとみ・高橋仁美 編 MEDICAL VIEW社 必要に応じPDFで紹介する。
履修条件・留意事項等	特になし
備考欄	

科目名		ナンバリング	単位	配当年次	開講期
250090R1 病態生理学特論		5500	2	1	前期
教員氏名	瀧山 晃弘				
授業の位置づけ	リハビリテーション分野に関する専門の知識や技術を醸成するため、学部境域で学んだ基礎医学知識をさらに発展させ研究を行う上で必要なリハビリテーション医学と関連の深い疾患の最新の病態生理学を学び、大学院での今後の研究を実施するのに役立ち、将来的に職場や地域社会に貢献する能力を身につける科目である。 「生命科学特論」に関連し、「病態生理学特論演習」や「神経生理学特論ならびに演習」、「運動器障害学特論ならびに演習」、「リハビリテーション科学特別研究」の基礎となる。				
授業の概要	リハビリテーション医学と関連の深い神経系や運動器系などを含む全身諸臓器について、それぞれを構成する細胞・組織の発生からその形態的・機能的特徴について、分子・細胞レベルから組織・臓器レベルまでを学び、各臓器への基礎医学的な理解を深め、それぞれの臓器での各種疾患の病因や病態生理を学習する。さらに機能回復に向けた治療の現状や再生について基礎医学的観点から学習する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 中枢神経系および末梢神経系の発生を含めた基本構造やその機能、特徴を踏まえ、代表的神経疾患の病因や病態生理を理解し、説明できる。</li> <li>2. 骨・関節・筋など運動器系の発生を含めた基本構造やその機能、特徴を踏まえ、代表的運動器疾患の病因や病態生理を理解し、説明できる。</li> <li>3. 上記のほか全身諸臓器の発生を含めた基本構造やその機能、特徴を踏まえ、代表的疾患の病因や病態生理を理解し、説明できる。</li> </ol>				
授業の方法	オンライン授業を実施する。 必要に応じパワーポイントと配布印刷物を用いて講義形式で行う。				
ICT活用	Google ClassroomのGoogleフォームを用いて練習問題を提供し、自主学習を促す。				
実務経験のある教員の教育内容	病理専門医として病理診断、病理解剖に従事した経験を活かして授業を行う。				
課題に対するフィードバックの方法	フィードバックとして、練習問題の解説を行う。				
授業計画	学習内容	準備学習および必要時間(分)	事後学習および必要時間(分)		
1	総論1. 病理学とは 病理学の概念と医学における位置付け、医療における病理診断の役割について学ぶ。	今回の学習内容について参考書やインターネットなどのツールを使い事前学習しておくこと。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)		
2	総論2. 細胞傷害 細胞傷害の種類やその機序を学ぶ。また傷害を受けた細胞組織の形態変化やその修復について学習する。	今回の学習内容について参考書やインターネットなどのツールを使い事前学習しておくこと。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)		
3	総論3. 先天異常 先天異常の種類と代表的な疾患、先天奇形の種類、染色体異常とその代表的疾患を学ぶ。	今回の学習内容について参考書やインターネットなどのツールを使い事前学習しておくこと。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)		
4	総論4. 循環障害 体液循環の機構や、局所の循環障害として、血栓、塞栓、梗塞の関係、出血、うっ血と浮腫、ショックについて、また全身循環障害について学ぶ。	今回の学習内容について参考書やインターネットなどのツールを使い事前学習しておくこと。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)		
5	総論5. 炎症 炎症に関わる細胞の種類や液性因子、炎症の分類やその転帰について学ぶ。	今回の学習内容について参考書やインターネットなどのツールを使い事前学習しておくこと。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)		
6	総論6. 免疫異常とアレルギー 免疫と免疫系の細胞、アレルギー反応、免疫不全症や自己免疫疾患などについて学ぶ。	今回の学習内容について参考書やインターネットなどのツールを使い事前学習しておくこと。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)		
7	総論7. 感染症 感染の原因となる病原体の種類や感染の成立、宿主の反応などについて学ぶ。	今回の学習内容について参考書やインターネットなどのツールを使い事前学習しておくこと。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)		
8	総論8. 腫瘍 腫瘍の概念や分類、その形態的特徴、発生機序、がんの浸潤・転移や病期、宿主への影響や予後の違い、がんの診断などについて学ぶ。	今回の学習内容について参考書やインターネットなどのツールを使い事前学習しておくこと。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)		

9	各論1. 「心臓の疾患」「脈管系の疾患」について学ぶ。	今回の学習内容について参考書やインターネットなどのツールを使い事前学習しておくこと。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
10	各論2. 「造血系・リンパ系の疾患」「呼吸器系の疾患」について学ぶ。	今回の学習内容について参考書やインターネットなどのツールを使い事前学習しておくこと。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
11	各論3. 「消化管の疾患」「肝臓、胆嚢、膵臓の疾患」について学ぶ。	今回の学習内容について参考書やインターネットなどのツールを使い事前学習しておくこと。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
12	各論4. 「泌尿器系の疾患」「男性生殖器系の疾患」について学ぶ。	今回の学習内容について参考書やインターネットなどのツールを使い事前学習しておくこと。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
13	各論5. 「女性生殖器系と乳腺の疾患」「内分泌系の疾患」について学ぶ。	今回の学習内容について参考書やインターネットなどのツールを使い事前学習しておくこと。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
14	各論6. 「筋・骨格系の疾患」「皮膚の疾患」について学ぶ。	今回の学習内容について参考書やインターネットなどのツールを使い事前学習しておくこと。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
15	各論7. 「脳・神経系の疾患」「眼と耳の疾患」「全身性疾患」について学ぶ。	今回の学習内容について参考書やインターネットなどのツールを使い事前学習しておくこと。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)

成績評価の方法		
区分	割合 (%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない。
定期試験以外 (授業内の課題・参加度・出席態度等)	100	各回で実施する小テストなど。
その他	0	特になし。

教科書	教科書は特に指定しない。
参考文献	標準病理学 第6版/北川正伸ほか編集/医学書院
履修条件・留意事項等	特になし。
備考欄	特になし。

科目名		ナンバリング	単位	配当年次	開講期
250100R1	病態生理学特論演習	5502	2	1	後期
教員氏名	瀧山 晃弘				
授業の位置づけ	病態生理学特論で学んだ知識に基づいて、全身諸臓器の病理組織像（プレパラート、バーチャルスライド、アトラス等）を観察し、基本的な病理形態学を学ぶための科目である。「生命科学特論」や「病態生理学特論」、「神経生理学特論」、「運動器障害学特論」に関連し、「リハビリテーション科学特別研究」の基礎となる。				
授業の概要	病態生理学特論で得た全身諸臓器の主要な疾患の病態生理学的知識に加え、それぞれの疾患の形態学的所見についての理解を深める。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 全身諸臓器の病態生理学に関する知識を深め、説明できる。</li> <li>2. 全身諸臓器の基本的な病理形態学的所見を理解し、説明できる。</li> <li>3. これらの知識をリハビリテーションの実践・研究に応用できる。</li> </ol>				
授業の方法	オンライン授業を実施する。 必要に応じパワーポイントと配布印刷物を用いて講義形式で行う。 Google ClassroomのGoogleフォームを用いた理解度確認テストを講義時間内に行う。				
ICT活用	Google ClassroomのGoogleフォームを用いて練習問題を提供し自主学習を促す。				
実務経験のある教員の教育内容	病理専門医として病理診断、病理解剖に従事した経験を活かして授業を行う。				
課題に対するフィードバックの方法	小テストのフィードバックとして解答の解説を行う。				
授業計画	学習内容	準備学習および必要時間(分)	事後学習および必要時間(分)		
1	1. 心臓 2. 血管 領域の病理形態学的所見について学ぶ。	今回の学習内容について参考書やインターネットなどのツールを使い事前学習しておくこと。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)		
2	3. 頭頸部・鼻腔・咽頭・喉頭・耳 4. 肺・縦隔 領域の病理形態学的所見について学ぶ。	今回の学習内容について参考書やインターネットなどのツールを使い事前学習しておくこと。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)		
3	5. 口腔 6. 唾液腺 領域の病理形態学的所見について学ぶ。	今回の学習内容について参考書やインターネットなどのツールを使い事前学習しておくこと。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)		
4	7. 食道・胃 8. 腸管 領域の病理形態学的所見について学ぶ。	今回の学習内容について参考書やインターネットなどのツールを使い事前学習しておくこと。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)		
5	9. 肝臓 10. 胆道・胆嚢 11. 膵臓 領域の病理形態学的所見について学ぶ。	今回の学習内容について参考書やインターネットなどのツールを使い事前学習しておくこと。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)		
6	12. 腎臓1(糸球体疾患など) 13. 腎臓2(腫瘍性疾患など) 領域の病理形態学的所見について学ぶ。	今回の学習内容について参考書やインターネットなどのツールを使い事前学習しておくこと。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)		
7	14. 尿路 15. 男性生殖器 領域の病理形態学的所見について学ぶ。	今回の学習内容について参考書やインターネットなどのツールを使い事前学習しておくこと。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)		
8	16. 卵巣・卵管 17. 子宮・外陰 領域の病理形態学的所見について学ぶ。	今回の学習内容について参考書やインターネットなどのツールを使い事前学習しておくこと。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)		
9	18. 乳腺 19. NET, 副腎 20. 甲状腺・副甲状腺 領域の病理形態学的所見について学ぶ。	今回の学習内容について参考書やインターネットなどのツールを使い事前学習しておくこと。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)		
10	21. 皮膚 22. 骨・関節 領域の病理形態学的所見について学ぶ。	今回の学習内容について参考書やインターネットなどのツールを使い事前学習しておくこと。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)		
11	23. 軟部組織 24. 脳・脊髄 領域の病理形態学的所見について学ぶ。	今回の学習内容について参考書やインターネットなどのツールを使い事前学習しておくこと。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)		

12	25. 脳腫瘍・下垂体 26. 末梢神経・筋 27. 眼 領域の病理形態学的所見について学ぶ。	今回の学習内容について参考書やインターネットなどのツールを使い事前学習しておくこと。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
13	28. 造血器 29. リンパ節・リンパ組織・脾臓 領域の病理形態学的所見について学ぶ。	今回の学習内容について参考書やインターネットなどのツールを使い事前学習しておくこと。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
14	30. 小児・周産期病理, 胎盤 領域の病理形態学的所見について学ぶ。	今回の学習内容について参考書やインターネットなどのツールを使い事前学習しておくこと。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
15	31. 代謝性疾患・全身性疾患 32. 膠原病・IgG4関連疾患 33. 感染症 領域の病理形態学的所見について学ぶ。	今回の学習内容について参考書やインターネットなどのツールを使い事前学習しておくこと。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)

成績評価の方法		
区分	割合 (%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない。
定期試験以外 (授業内の課題・参加度・出席態度等)	100	小テストの提出状況等。
その他	0	なし

教科書	教科書は特に指定しない。
参考文献	組織病理アトラス 第6版/小田義直ほか (編集)/文光堂
履修条件・留意事項等	病態生理学特論の修得をしていることが望ましい。
備考欄	特になし。

科目名		ナンバリング	単位	配当年次	開講期
250110R1 神経生理学特論		5505	2	1	前期
教員氏名	木村 一志、柴田 恵理子				
授業の位置づけ	リハビリテーション分野に関する専門的知識を身につけるための科目である。「神経障害学特論」と関連し、「神経生理学特論演習」の基礎となる。				
授業の概要	脳をはじめとする神経細胞による情報伝達・情報処理機構とその生理機構について、分子・細胞レベルから組織・臓器・個体レベルに至るまで幅広く理解し、リハビリテーションによる神経機能回復について神経科学的観点から学修する。				
到達目標	中枢神経系の構造と機能を理解し、生体機能を担う神経情報伝達の仕組みを説明できる。 運動制御の背景となる神経生理の基礎及びその神経系の統合作用について理解する。 中枢神経系疾患の病態生理を理解し、説明できる。				
授業の方法	オンラインで行う。 パワーポイント、配布印刷物を活用しながら、教科書の輪読とゼミ形式での文献紹介を行う。				
ICT活用	なし				
実務経験のある教員の教育内容	木村：該当なし。 柴田：理学療法士として勤務した経験を活かして、脳脊髄による運動制御とその障害について授業を行う。				
課題に対するフィードバックの方法	授業中の発表に対してディスカッションを行いながら知識の確認を行う。 提出されたレポートに対して、不足があれば、補足説明を行う。				
授業計画	学習内容	準備学習および必要時間(分)	事後学習および必要時間(分)		
1	神経細胞による情報伝達機構を理解する。(木村一志)	教科書第1～4章を予習しておくこと。(90分)	授業内容を復習すること。授業で紹介した文献を読んでおくこと。(90分)		
2	中枢神経組織の構造と機能を理解する。(木村一志)	教科書第5～13、15章を予習しておくこと。(90分)	授業内容を復習すること。授業で紹介した文献を読んでおくこと。(90分)		
3	神経発生メカニズムについて理解する。(木村一志)	教科書第52～54章を予習しておくこと。(90分)	授業内容を復習すること。授業で紹介した文献を読んでおくこと。(90分)		
4	神経回路形成メカニズムについて理解する。(木村一志)	教科書第55、56章を予習しておくこと。(90分)	授業内容を復習すること。授業で紹介した文献を読んでおくこと。(90分)		
5	感覚受容機構と脳における情報処理1：視覚・平衡覚・体性感覚について理解する。(木村一志)	教科書第16～24章を予習しておくこと。(90分)	授業内容を復習すること。授業で紹介した文献を読んでおくこと。(90分)		
6	感覚受容機構と脳における情報処理2：聴覚・味覚・嗅覚について理解する。(木村一志)	教科書第25～32章を予習しておくこと。(90分)	授業内容を復習すること。授業で紹介した文献を読んでおくこと。(90分)		
7	脳の可塑性変化メカニズムについて理解する。(木村一志)	教科書第57、65章を予習しておくこと。(90分)	授業内容を復習すること。授業で紹介した文献を読んでおくこと。(90分)		
8	シナプス可塑性と学習・記憶の仕組みを理解する。(木村一志)	教科書第66、67章を予習しておくこと。(90分)	授業内容を復習すること。授業で紹介した文献を読んでおくこと。(90分)		
9	自律神経系と内分泌について理解する。(木村一志)	教科書第45～49章を予習しておくこと。(90分)	授業内容を復習すること。授業で紹介した文献を読んでおくこと。(90分)		
10	脳の高次機能について学修し、理解する。(木村一志)	教科書第60、61章を予習しておくこと。(90分)	授業内容を復習すること。授業で紹介した文献を読んでおくこと。(90分)		
11	中枢神経系による運動制御の概略について理解する。(柴田恵理子)	教科書第33、34章を予習しておくこと。(90分)	授業内容を復習すること。授業で紹介した文献を読んでおくこと。(90分)		
12	運動制御機構1：脊髄・脳幹レベルの運動制御機構について理解する。(柴田恵理子)	教科書第35、36章を予習しておくこと。(90分)	授業内容を復習すること。授業で紹介した文献を読んでおくこと。(90分)		
13	運動制御機構2：大脳皮質による運動制御機構について理解する。(柴田恵理子)	教科書第37～40章を予習しておくこと。(90分)	授業内容を復習すること。授業で紹介した文献を読んでおくこと。(90分)		
14	運動制御機構3：小脳・大脳基底核による運動制御機構を理解する。(柴田恵理子)	教科書第41～44章を予習しておくこと。(90分)	授業内容を復習すること。授業で紹介した文献を読んでおくこと。(90分)		
15	中枢神経疾患、障害とそのリハビリテーションの神経科学的基盤について学修し、理解する。(柴田恵理子)	教科書第14、56、57、59章を予習しておくこと。(90分)	授業内容を復習すること。授業で紹介した文献を読んでおくこと。(90分)		

成績評価の方法		
区分	割合 (%)	内容
定期試験	0	



定期試験以外（授業内の課題・参加度・出席態度等）	100	毎回講義のまとめレポート作成と神経科学に関する原著論文を数篇読んでレポート作成
その他	0	

教科書	カンデル神経科学、カンデル他編、メディカルサイエンスインターナショナル
参考文献	適宜、分献、参考資料などを紹介または配布する。
履修条件・留意事項等	生命科学特論を履修すること。
備考欄	

科目名		ナンバリング	単位	配当年次	開講期
250120R1 神経生理学特論演習		5507	2	1	後期
教員氏名	木村 一志、柴田 恵理子				
授業の位置づけ	リハビリテーション分野に関する専門的知識と技術を身につけるための科目である。「リハビリテーション科学特別研究」の基礎となる。				
授業の概要	脳をはじめとする神経細胞による情報伝達・情報処理機構とその生理機能を解明する研究手法について、分子・細胞レベルから組織・臓器・個体レベルに至るまで幅広く学習し、その実験技術を修得する。				
到達目標	神経細胞・組織の分子生物学的・細胞生物学的解析方法について理解する。 神経生理学的解析方法について理解する。 生体機能を担う神経情報伝達の仕組みや中枢神経系疾患の病態生理を解明する研究を立案し、遂行できる。				
授業の方法	配布印刷物を用いて方法を説明したのち、実験あるいは実験のデモンストレーションを行う。 実験終了後に実験目的、内容、実験結果、結果の解析、結果の考察をまとめたレポートを作成する。 内容によってはオンラインで行う。				
ICT活用	なし				
実務経験のある教員の教育内容	木村：該当なし。 柴田：理学療法士として勤務した経験を活かして、筋電計と脳波装置を使った演習を指導する。				
課題に対するフィードバックの方法	実験結果が得られるごとに討論を行いながら考察を行う。 提出されたレポートに対して、不足があれば、補足説明を行う。				
授業計画	学習内容	準備学習および必要時間(分)	事後学習および必要時間(分)		
1	遺伝子の研究法1：PCR法により遺伝子多型や発現量を調べる。(木村一志)	演習項目ごとに関連する文献を予習しておくこと(30分)	レポートを作成すること(120分)		
2	遺伝子の研究法2：リアルタイムPCR法による遺伝子発現解析法を行う。(木村一志)	演習項目ごとに関連する文献を予習しておくこと(30分)	レポートを作成すること(120分)		
3	タンパク質の研究法：ウェスタンブロッティングを行い、タンパク質発現量を調べる。(木村一志)	演習項目ごとに関連する文献を予習しておくこと(30分)	レポートを作成すること(120分)		
4	神経細胞の研究法1：神経細胞の培養法を習得する。(木村一志)	演習項目ごとに関連する文献を予習しておくこと(30分)	レポートを作成すること(120分)		
5	神経細胞の研究法2：培養した神経細胞の形態学的解析、色素染色や免疫染色を行う。(木村一志)	演習項目ごとに関連する文献を予習しておくこと(30分)	レポートを作成すること(120分)		
6	神経組織の研究法：神経組織の色素染色や免疫染色による形態学的解析を行う。(木村一志)	演習項目ごとに関連する文献を予習しておくこと(30分)	レポートを作成すること(120分)		
7	臓器レベルの研究法：脳スライス画像を用いて神経解剖学的解析を行う。(木村一志)	演習項目ごとに関連する文献を予習しておくこと(30分)	レポートを作成すること(120分)		
8	個体レベルの研究法1：心電図計測と自律神経活動の測定を行う。(木村一志)	演習項目ごとに関連する文献を予習しておくこと(30分)	レポートを作成すること(120分)		
9	個体レベルの研究法2：ストレスの測定 1-唾液アミラーゼ計測によるストレスの変動を調べる。(木村一志)	演習項目ごとに関連する文献を予習しておくこと(30分)	レポートを作成すること(120分)		
10	個体レベルの研究法3：ストレス測定 2-ストレスホルモンの計測を行い、その変動を調べる。(木村一志)	演習項目ごとに関連する文献を予習しておくこと(30分)	レポートを作成すること(120分)		
11	個体レベルの研究法4：誘発筋電図 1-神経伝導速度の計測を行う。(柴田恵理子)	演習項目ごとに関連する文献を予習しておくこと(30分)	レポートを作成すること(120分)		
12	個体レベルの研究法5：動作時筋電図1-上下肢の表面筋電図を計測し、上下肢の筋の働きを調べる。(柴田恵理子)	演習項目ごとに関連する文献を予習しておくこと(30分)	レポートを作成すること(120分)		
13	個体レベルの研究法6：誘発筋電図 2- H波、F波の計測を行う。(柴田恵理子)	演習項目ごとに関連する文献を予習しておくこと(30分)	レポートを作成すること(120分)		
14	個体レベルの研究法7：動作時筋電図2-表面筋電図を使用し、筋疲労における筋活動の特性を調べる。(柴田恵理子)	演習項目ごとに関連する文献を予習しておくこと(30分)	レポートを作成すること(120分)		
15	個体レベル研究法8：頭皮上脳波を用いて、運動に関わる脳活動を調べる。(柴田恵理子)	演習項目ごとに関連する文献を予習しておくこと(30分)	レポートを作成すること(120分)		

成績評価の方法

区分	割合 (%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外 (授業内の課題・参加度・出席態度等)	100	演習項目ごとにレポートを作成
その他	0	

教科書	なし
参考文献	演習項目ごとに関連する文献を紹介する
履修条件・留意事項等	神経生理学特論を履修していることが望ましい。
備考欄	

科目名		ナンバリング	単位	配当年次	開講期
250010R1 身体機能解析学特論		5510	2	1	前期
教員氏名	田邊 芳恵、佐藤 明紀				
授業の位置づけ	リハビリテーション分野に関する各専門の知識と技術をもって、職場や地域社会に貢献するための科目である。				
授業の概要	ヒトの運動及び身体機能の解析について、運動学的、基礎医学的な手法を学び、それぞれの特徴を捉える。さらに学んだ手法によって得られた結果を基に身体機能について理解を深め、正常と異常の差異を明らかにする。得られた知見からリハビリテーション領域における臨床応用の基礎を構築する。				
到達目標	ヒトの運動及び身体機能の解析方法を説明できる。 四肢及び体幹の運動や身体機能について正常と異常の差異を説明できる。 得られた知見からリハビリテーション領域における臨床応用について説明できる。				
授業の方法	最新の知見や学生それぞれの臨床経験を踏まえたディスカッションを交えながら、講義形式で行う。				
ICT活用	必要に応じてGoogle Meetを用いて双方向授業を取り入れる。				
実務経験のある教員の教育内容	田邊および佐藤は理学療法士として臨床研究を継続してきた経験を活かして、ヒトの身体機能について学内にある検査器具を用いて解析し、その結果の考察について学生と共に討論する。				
課題に対するフィードバックの方法	講義中のディスカッションを通して理解を深め、必要に応じて補足説明を行う。				
授業計画	学習内容	準備学習および必要時間(分)	事後学習および必要時間(分)		
1	オリエンテーション。 各自が興味のある身体部位について理解を深めたい事柄を整理し、要点をまとめる。(田邊)	講義内容の関連事項について文献をできるだけ多く読み理解を深めること。(90分)	講義内容についてノートにまとめておくこと。(90分)		
2	上肢の外傷と疾患について運動学の知識を用いて身体機能を解析する。(田邊)	講義内容の関連事項について文献をできるだけ多く読み理解を深めること。(90分)	講義内容についてノートにまとめておくこと。(90分)		
3	前回の講義内容を元に、上肢の外傷と疾患について理解を深める。(田邊)	講義内容の関連事項について文献をできるだけ多く読み理解を深めること。(90分)	講義内容についてノートにまとめておくこと。(90分)		
4	前回、前々回の講義内容を元に上肢の外傷予防について考察する。(田邊)	講義内容の関連事項について文献をできるだけ多く読み理解を深めること。(90分)	講義内容についてノートにまとめておくこと。(90分)		
5	下肢の外傷と疾患について運動学の知識を用いて身体機能を解析する。(田邊)	講義内容の関連事項について文献をできるだけ多く読み理解を深めること。(90分)	講義内容についてノートにまとめておくこと。(90分)		
6	前回の講義内容を元に、下肢の外傷と疾患について理解を深める。(田邊)	講義内容の関連事項について文献をできるだけ多く読み理解を深めること。(90分)	講義内容についてノートにまとめておくこと。(90分)		
7	前回、前々回の講義内容を元に下肢の外傷予防について考察する。(田邊)	講義内容の関連事項について文献をできるだけ多く読み理解を深めること。(90分)	講義内容についてノートにまとめておくこと。(90分)		
8	体幹の外傷と疾患について運動学の知識を用いて身体機能を解析する。(田邊)	講義内容の関連事項について文献をできるだけ多く読み理解を深めること。(90分)	講義内容についてノートにまとめておくこと。(90分)		
9	前回の講義内容を元に、体幹の外傷と疾患について理解を深める。(田邊)	講義内容の関連事項について文献をできるだけ多く読み理解を深めること。(90分)	講義内容についてノートにまとめておくこと。(90分)		
10	前回、前々回の講義内容を元に体幹の外傷予防について考察する。(田邊)	講義内容の関連事項について文献をできるだけ多く読み理解を深めること。(90分)	講義内容についてノートにまとめておくこと。(90分)		
11	筋電計を用いた身体解析の基礎について学ぶ。(佐藤)	講義内容の関連事項について文献をできるだけ多く読み理解を深めること。(90分)	講義内容についてノートにまとめておくこと。(90分)		
12	筋電計を用いた身体解析の実際を学ぶ。(佐藤)	講義内容の関連事項について文献をできるだけ多く読み理解を深めること。(90分)	講義内容についてノートにまとめておくこと。(90分)		
13	基本動作能力解析の基礎について学ぶ。(佐藤)	講義内容の関連事項について文献をできるだけ多く読み理解を深めること。(90分)	講義内容についてノートにまとめておくこと。(90分)		
14	基本動作能力解析の実際について学ぶ。(佐藤)	講義内容の関連事項について文献をできるだけ多く読み理解を深めること。(90分)	講義内容についてノートにまとめておくこと。(90分)		
15	歩行分析の解析について基礎と実際を学ぶ。(佐藤)	講義内容の関連事項について文献をできるだけ多く読み理解を深めること。(90分)	講義内容についてノートにまとめておくこと。(90分)		

成績評価の方法		
区分	割合 (%)	内容
定期試験	0	なし

定期試験以外（授業内の課題・参加度・出席態度等）	50	レポート課題
その他	50	授業中に行うディスカッションへの参加や発言の内容を評価する。

教科書	特になし
参考文献	特になし
履修条件・留意事項等	レポート課題作成のためPC及びインターネット環境を整えておくこと。
備考欄	

科目名		ナンバリング	単位	配当年次	開講期
250040R1 身体機能解析学演習		5512	2	1	後期
教員氏名	田邊 芳恵、佐藤 明紀				
授業の位置づけ	ディプロマポリシーで定められているように、リハビリテーション関連領域において中核的・指導的役割を果たす高度の専門職業人となるために、高い臨床研究能力を涵養する授業の一つである。身体機能解析学特論で学んだ知識を基礎とする。				
授業の概要	身体機能解析学特論で学んだ知識を基に、生理学的、工学的、運動学的な解析手法を実際に行い、それぞれの特徴を捉える。さらに任意の課題動作において健康人に対する解析や文献的考察を行い、正常な動作と障害された動作の差異について考察する。				
到達目標	運動及び身体機能の計測と解析を実行できる。 四肢及び体幹の運動や身体機能について正常な動作と障害された動作の差異を説明できる。				
授業の方法	座学、グループ討議、課題に対する検討会などを行い、臨床研究に即した実践的知識・技能を深める。必要に応じてインターネットを用いた調査や学習も実施する。				
ICT活用	必要に応じてGoogle Meetを用いた双方向授業を取り入れる。				
実務経験のある教員の教育内容	田邊および佐藤は理学療法士として医療機関での勤務と臨床研究を継続してきた経験を活かして、ヒトの身体機能について学内にある検査機器を用いて解析し、その結果の考察について学生と共に討論する。				
課題に対するフィードバックの方法	演習内容について学生が主体的に課題を遂行し、講義内で適宜フィードバックする。				
授業計画	学習内容	準備学習および必要時間(分)	事後学習および必要時間(分)		
1	オリエンテーション。 前期科目の身体機能解析学特論で行った内容を踏まえて、各自で演習テーマを決める。(田邊)	身体機能解析に用いられる様々な機器やデータ処理の手法について予習すること。(60分)	演習内容の関連事項について文献をできるだけ多く読み理解を深めること。(60分)		
2	前回授業で決めた演習テーマに沿って、解析方法を文献等を調べながら決定する。(佐藤)	基礎課題データ収集の方法について文献をできるだけ多く読み理解を深めること。(60分)	演習内容の関連事項について文献をできるだけ多く読み理解を深めること。(60分)		
3	前回授業で決めた解析方法が有効であるか否かについて文献等を調べながらさらに考察する。(田邊)	基礎課題データ収集の方法について文献をできるだけ多く読み理解を深めること。(60分)	演習内容の関連事項について文献をできるだけ多く読み理解を深めること。(60分)		
4	各自のテーマに沿って学生同士でブレデータを取り、結果について検討する。(田邊)	各自が使用する身体機能解析に用いられる様々な機器について予習すること。(60分)	演習内容の関連事項について文献をできるだけ多く読み理解を深めること。(60分)		
5	各自のテーマに沿って学生同士でブレデータを取り、結果について検討する。また、得られたデータについて先行研究などを参照しながら学生同士で討論し、演習テーマを決定する。(田邊)	収集したデータが示す意味について文献をできるだけ多く読み理解を深めること。(60分)	演習内容の関連事項について文献をできるだけ多く読み理解を深めること。(60分)		
6	各自の演習テーマに沿ってデータの採取を行う。(田邊)	収集したデータが示す意味について文献をできるだけ多く読み理解を深めること。(60分)	演習内容の関連事項について文献をできるだけ多く読み理解を深めること。(60分)		
7	前回からの継続として、各自の演習テーマに沿ってデータの採取を行い、データをまとめる。(田邊)	収集したデータが示す意味について文献をできるだけ多く読み理解を深めること。(60分)	演習内容の関連事項について文献をできるだけ多く読み理解を深めること。(60分)		
8	中間発表を行い、学生同士で討論する。(田邊)	中間発表・討論に向けて内容を整理し、まとめておくこと。(60分)	中間発表および討論を受けて、各テーマについて復習すること。(60分)		
9	中間発表および討論を元に、解析方法等についての修正を行う。(田邊)	中間発表・討論の結果を受けてテーマの修正が必要か否かについて内容を整理しておくこと。(60分)	演習内容の関連事項について文献をできるだけ多く読み理解を深めること。(60分)		
10	前回の修正を基に演習テーマについてのデータ収集を行う。(田邊)	収集したデータについて文献をできるだけ多く読み理解を深めること。(60分)	演習内容の関連事項について文献をできるだけ多く読み理解を深めること。(60分)		
11	前回の継続として演習テーマについてのデータ収集を行う。(田邊)	収集したデータについて文献をできるだけ多く読み理解を深めること。(60分)	演習内容の関連事項について文献をできるだけ多く読み理解を深めること。(60分)		
12	演習テーマのデータ解析に必要な統計について学び準備を行う。(佐藤)	データ解析で用いる統計について文献をできるだけ多く読み理解を深めること。(60分)	演習内容の関連事項について文献をできるだけ多く読み理解を深めること。(60分)		

13	演習テーマの発表および討論にむけて、データの確認や統計学的解析を行う。(佐藤)	収集したデータが示す意味について文献をできるだけ多く読み理解を深めること。(60分)	演習内容の関連事項について文献をできるだけ多く読み理解を深めること。(60分)
14	演習テーマの発表および討論の準備を行う。(佐藤)	発表・討論に向けて内容を整理し、まとめておくこと。(60分)	演習内容の関連事項について文献をできるだけ多く読み理解を深めること。(60分)
15	各自の演習テーマについての発表および討論。(佐藤)	発表・討論に向けて内容を整理し、まとめておくこと。(60分)	発表および討論を受けて、各テーマについて復習すること。(60分)

成績評価の方法		
区分	割合 (%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外 (授業内の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内の課題、グループディスカッションへの参加態度
その他	0	なし

教科書	特になし
参考文献	特になし
履修条件・留意事項等	レポート課題作成のためPC及びインターネット環境を整えておくこと。
備考欄	

科目名		ナンバリング	単位	配当年次	開講期
250130R1 運動器障害学特論		5530	2	1	前期
教員氏名	金子 翔拓、高田 雄一				
授業の位置づけ	1. リハビリテーション分野のチームアプローチで、他職種との協働を理解し、中核的あるいは指導的な役割を果たすことが出来る為ための科目である。 2. リハビリテーション分野に関わる地域や時代のニーズを的確に把握し、幅広い視野で柔軟に対応することが出来るための科目である。 3. リハビリテーション分野に関する各専門分野の知識と技術を持って、職場や地域社会に貢献することが出来るための科目である。 運動器障害学特論演習の基礎となる。				
授業の概要	下肢、脊柱の機能障害に対するリハビリテーション治療の臨床・研究の現状を理解し、今後の課題について学修する。				
到達目標	1. 下肢、脊柱の機能障害に関する最新の文献に触れ、研究動向を理解できる。 2. 下肢、脊柱の機能障害に対する徒手療法、運動療法について理解できる。 3. 足部の機能障害、身体運動のパフォーマンス向上を目的としたインソール療法について理解できる。				
授業の方法	配布印刷物を活用しながら、教科書の輪読とゼミ形式での文献紹介を行う。				
ICT活用	なし				
実務経験のある教員の教育内容	指導にあたる両教員は15年以上に渡る実務経験があり、この経験を活かして指導を行う。				
課題に対するフィードバックの方法	各授業の終わりにディスカッションを行い、内容の理解を深める。				
授業計画	学習内容	準備学習および必要時間(分)	事後学習および必要時間(分)		
1	1章 基本理念と概念 (金子)	教科書第1章を予習しておくこと。(90分)	授業内容を復習すること。授業で紹介した文献を読んでおくこと。(90分)		
2	2章 頭部・顔面 (高田)	教科書第2章を予習しておくこと。(90分)	授業内容を復習すること。授業で紹介した文献を読んでおくこと。(90分)		
3	3章 頸 椎 (高田)	教科書第3章を予習しておくこと。(90分)	授業内容を復習すること。授業で紹介した文献を読んでおくこと。(90分)		
4	4章 顎関節 (高田)	教科書第4章を予習しておくこと。(90分)	授業内容を復習すること。授業で紹介した文献を読んでおくこと。(90分)		
5	5章 肩関節 (高田)	教科書第5章を予習しておくこと。(90分)	授業内容を復習すること。授業で紹介した文献を読んでおくこと。(90分)		
6	8章 胸 椎 (高田)	教科書第8章を予習しておくこと。(90分)	授業内容を復習すること。授業で紹介した文献を読んでおくこと。(90分)		
7	9章 腰 椎 (高田)	教科書第9章を予習しておくこと。(90分)	授業内容を復習すること。授業で紹介した文献を読んでおくこと。(90分)		
8	10章 骨 盤 (高田)	教科書第10章を予習しておくこと。(90分)	授業内容を復習すること。授業で紹介した文献を読んでおくこと。(90分)		
9	11章 股関節 (高田)	教科書第11章を予習しておくこと。(90分)	授業内容を復習すること。授業で紹介した文献を読んでおくこと。(90分)		
10	12章 膝関節 (高田)	教科書第12章を予習しておくこと。(90分)	授業内容を復習すること。授業で紹介した文献を読んでおくこと。(90分)		
11	13章 下腿、足関節、足部 (高田)	教科書第13章を予習しておくこと。(90分)	授業内容を復習すること。授業で紹介した文献を読んでおくこと。(90分)		
12	14章 歩行の評価 (高田)	教科書第14章を予習しておくこと。(90分)	授業内容を復習すること。授業で紹介した文献を読んでおくこと。(90分)		
13	15章 姿勢の評価 (高田)	教科書第15章を予習しておくこと。(90分)	授業内容を復習すること。授業で紹介した文献を読んでおくこと。(90分)		
14	17章 スポーツ時の緊急評価 (高田)	教科書第17章を予習しておくこと。(90分)	授業内容を復習すること。授業で紹介した文献を読んでおくこと。(90分)		
15	18章 社会参加前の評価 (高田)	教科書第18章を予習しておくこと。(90分)	授業内容を復習すること。授業で紹介した文献を読んでおくこと。(90分)		

成績評価の方法		
区分	割合 (%)	内容
定期試験	0	実施しない



定期試験以外（授業内の課題・参加度・出席態度等）	100	出席率、授業態度
その他	0	なし

教科書	運動器リハビリテーションの機能評価 I・II（原著第4版），陶山哲夫・高倉保幸・ほか／監訳，エルゼビア
参考文献	適宜、分献、参考資料などを紹介または配布する。
履修条件・留意事項等	臨床において下肢、脊柱の運動器障害に対するリハビリテーションを経験していること。複数人の履修が望ましい。
備考欄	

科目名		ナンバリング	単位	配当年次	開講期
250140R1 運動器障害学特論演習		5532	2	1	後期
教員氏名	金子 翔拓、高田 雄一				
授業の位置づけ	1. リハビリテーション分野のチームアプローチで、他職種との協働を理解し、中核的あるいは指導的な役割を果たすことができるための科目である。 2. リハビリテーション分野に関わる地域や時代のニーズを的確に把握し、幅広い視野で柔軟に対応することができるための科目である。 3. リハビリテーション分野に関する各専門の知識と技術を持って、職場や地域社会に貢献することができるための科目である。 リハビリテーション科学特別研究の基礎となる。				
授業の概要	運動器障害治療の基礎科学、評価・治療の基本概念と、それを実践するための実践的技法 (manual therapy)、インソール療法を修得する。 ・運動器疾患に対する基本的な臨床推論と、臨床判断の理論的背景を学修する。 ・運動器疾患に対する研究論文を系統的に分析し、治療における科学性について学修する。				
到達目標	1. 徒手療法、インソール療法に関する研究論文を系統的に分析、理解し、批判できる。 2. 徒手療法、インソール療法の治療効果を科学的に検証し、研究を計画し、実施できる。 3. 運動器疾患に対する研究論文を系統的に分析し、治療における科学性について説明できる。				
授業の方法	運動器障害に対する徒手療法の適切な評価・治療技術を相互実習により習得する。 また、ゼミ形式で運動器疾患に関する英文論文の分析・討議を通して最新の知見を理解するとともに研究能力を培う。				
ICT活用	なし				
実務経験のある教員の教育内容	指導にあたる両教員は15年以上に渡る実務経験があり、この経験を活かして指導を行う。				
課題に対するフィードバックの方法	課題に関する各自の発表において質疑応答および助言により理解を深める。				
授業計画	学習内容	準備学習および必要時間(分)	事後学習および必要時間(分)		
1	オリエンテーション 症例について臨床推論し、発表・討議する (金子)	発表する症例の問題点を十分把握し、質問に答えられるよう準備しておくこと。(90分)	質疑応答により内容を深く理解すること。(90分)		
2	下肢のマニュアルセラピーの実技演習 (高田)	演習内容について、その理論および基本的技術を理解しておくこと。(90分)	演習内容を実践できるよう理解を深めること。(90分)		
3	歩行・動作に関連する足部・足関節の評価と治療手技の実技演習 (高田)	演習内容について、その理論および基本的技術を理解しておくこと。(90分)	演習内容を実践できるよう理解を深めること。(90分)		
4	歩行・動作に基づくインソール作成(高田)	演習内容について、その理論および基本的技術を理解しておくこと。(90分)	演習内容を実践できるよう理解を深めること。(90分)		
5	歩行・動作に基づくインソール作成(高田)	演習内容について、その理論および基本的技術を理解しておくこと。(90分)	演習内容を実践できるよう理解を深めること。(90分)		
6	歩行・動作に基づくインソール作成(高田)	演習内容について、その理論および基本的技術を理解しておくこと。(90分)	演習内容を実践できるよう理解を深めること。(90分)		
7	頸・胸椎のマニュアルセラピーの実技演習 (高田)	演習内容について、その理論および基本的技術を理解しておくこと。(90分)	演習内容を実践できるよう理解を深めること。(90分)		
8	腰部、骨盤帯、股関節を含む評価と治療手技の実技演習 (高田)	演習内容について、その理論および基本的技術を理解しておくこと。(90分)	演習内容を実践できるよう理解を深めること。(90分)		
9	腰部、骨盤帯、股関節を含む評価と治療手技の実技演習 (高田)	演習内容について、その理論および基本的技術を理解しておくこと。(90分)	演習内容を実践できるよう理解を深めること。(90分)		
10	下肢の運動器障害に関するリハ関連の研究論文の精読と分析およびディスカッション (高田)	演習内容について、その理論および基本的技術を理解しておくこと。(90分)	授業内容を復習すること。授業で紹介した文献を読んでおくこと。(90分)		
11	腰部の運動器障害に関するリハ関連の研究論文の精読と分析およびディスカッション (高田)	演習内容について、その理論および基本的技術を理解しておくこと。(90分)	授業内容を復習すること。授業で紹介した文献を読んでおくこと。(90分)		
12	腰部、仙腸関節のマニュアルセラピーの実技演習 (高田)	演習内容について、その理論および基本的技術を理解しておくこと。(90分)	演習内容を実践できるよう理解を深めること。(90分)		

13	マニュアルセラピーに関する研究論文の精読と分析およびディスカッション(高田)	演習内容について、その理論および基本的技術を理解しておくこと。(90分)	授業内容を復習すること。授業で紹介した文献を読んでおくこと。(90分)
14	足部、インソールに関する研究論文の精読と分析およびディスカッション(高田)	演習内容について、その理論および基本的技術を理解しておくこと。(90分)	授業内容を復習すること。授業で紹介した文献を読んでおくこと。(90分)
15	症例についての臨床推論 (高田)	発表する症例の問題点を十分把握し、質問に答えられるよう準備しておくこと。(90分)	質疑応答により内容を深く理解すること。(90分)

成績評価の方法		
区分	割合 (%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試験以外 (授業内の課題・参加度・出席態度等)	100	出席率、授業態度
その他	0	

教科書	マニュアルセラピー臨床現場における実践 ヨヘン・ショーマツハー 宮本重範他 ISBN9784882829133
参考文献	適宜、分献、参考資料などを紹介または配布する。
履修条件・留意事項等	臨床において下肢、脊柱の運動器障害に対するリハビリテーションを経験していること。同特論を履修していることが望ましい。
備考欄	

科目名		ナンバリング	単位	配当年次	開講期
250270R1 上肢作業機能回復学特論		5535	2		前期
教員氏名	白戸 力弥、金子 翔拓				
授業の位置づけ	リハビリテーション分野に関する各専門の知識と技術をもって、職場や地域社会に貢献する能力を身につける科目である。上肢機能回復学特論演習の基礎となる科目である。				
授業の概要	上肢機能に関連する最新の臨床・研究の現状を理解し、今後の研究課題について学修する。				
到達目標	1. 上肢作業機能の解析法について理解できる。 2. 上肢作業機能回復に必要な肩・肘・手関節外科に関する最新の治療法や手術手技について理解できる。 3. 上肢作業機能障害に関する予防的アプローチ、作業機能回復のためのリハビリテーションアプローチについて理解できる。 4. 上肢作業機能障害及びアプローチに関する最新の文献に触れることで、研究動向を理解できる。				
授業の方法	オンライン授業を中心に実施する。パワーポイント、配布印刷物を活用しながら、ディスカッション方式で授業を行う。またゼミ形式で各自の研究テーマに応じた英文抄読を行い理解を深める。				
ICT活用	なし				
実務経験のある教員の教育内容	指導にあたる両教員は10年以上に渡る実務経験があり、この経験を活かして指導を行う。				
課題に対するフィードバックの方法	各授業の終わりにディスカッションを行い、理解を深める。				
授業計画	学習内容	準備学習および必要時間(分)	事後学習および必要時間(分)		
1	オリエンテーション(白戸) コースガイドについての説明	なし	各授業内容の関連事項について参考書、および配布資料を精読し、理解すること。(180分)		
2	上肢機能のバイオメカニクス1(白戸) 手指・手関節のバイオメカニクスと解析法	なし	各授業内容の関連事項について参考書、および配布資料を精読し、理解すること。(180分)		
3	上肢機能のバイオメカニクス2(金子) 肘関節のバイオメカニクスと解析法	なし	各授業内容の関連事項について参考書、および配布資料を精読し、理解すること。(180分)		
4	上肢機能のバイオメカニクス3(金子) 肩関節のバイオメカニクスと解析法	なし	各授業内容の関連事項について参考書、および配布資料を精読し、理解すること。(180分)		
5	上肢作業機能障害に関する予防的アプローチ1(金子) 蓄積性外傷疾患の最新の知見について	なし	各授業内容の関連事項について参考書、および配布資料を精読し、理解すること。(180分)		
6	上肢作業機能障害に関する予防的アプローチ2(白戸) 労働災害予防事故発生のについて	なし	各授業内容の関連事項について参考書、および配布資料を精読し、理解すること。(180分)		
7	手外科領域に関する最新の治療法 手指疾患に対する各種手術手技とハンドセラピニアプローチ(白戸)	なし	各授業内容の関連事項について参考書、および配布資料を精読し、理解すること。(180分)		
8	手関節外科領域に関する最新の治療法 手関節疾患に対する手術手技とハンドセラピニアプローチ(白戸)	なし	各授業内容の関連事項について参考書、および配布資料を精読し、理解すること。(180分)		
9	肘関節外科領域に関する最新の治療法 手術手技とリハビリテーションアプローチ(白戸)	なし	各授業内容の関連事項について参考書、および配布資料を精読し、理解すること。(180分)		
10	肩関節外科領域に関する最新の治療法 手術手技とリハビリテーションアプローチ(金子)	なし	各授業内容の関連事項について参考書、および配布資料を精読し、理解すること。(180分)		
11	上肢作業機能障害及びアプローチに関する英文抄読会1(金子) 研究テーマに関する文献、または上肢障害やアプローチ法についての最新の英語論文をまとめる。	事前に上肢機能に関連した英語論文を読んでまとめること。(180分)	なし		

12	上肢作業機能障害及びアプローチに関する英文抄読会2（白戸） 研究テーマに関する文献，または上肢障害やアプローチ法についての最新の英語論文をまとめる。	事前に上肢機能に関連した英語論文を読んでまとめること。（180分）	なし
13	上肢作業機能障害及びアプローチに関する英文抄読会3（金子） 研究テーマに関する文献，または上肢障害やアプローチ法についての最新の英語論文をまとめる。	事前に上肢機能に関連した英語論文を読んでまとめること。（180分）	なし
14	上肢作業機能障害及びアプローチに関する英文抄読会4（白戸） 研究テーマに関する文献，または上肢障害やアプローチ法についての最新の英語論文をまとめる。	事前に上肢機能に関連した英語論文を読んでまとめること。（180分）	なし
15	上肢作業機能障害及びアプローチに関する英文抄読会5（金子） 研究テーマに関する文献，または上肢障害やアプローチ法についての最新の英語論文をまとめる。	事前に上肢機能に関連した英語論文を読んでまとめること。（180分）	なし

成績評価の方法		
区分	割合（％）	内容
定期試験	0	実施しない
定期試験以外（授業内の課題・参加度・出席態度等）	100	レポート課題
その他	0	

教科書	指定しない
参考文献	随時、紹介する
履修条件・留意事項等	臨床において上肢運動器障害に対するリハビリテーションを経験していること。複数人の履修が望ましい。
備考欄	

科目名		ナンバリング	単位	配当年次	開講期
250280R1 上肢作業機能回復学特論演習		5537	2	1	後期
教員氏名	白戸 力弥、金子 翔拓				
授業の位置づけ	リハビリテーション分野に関する各専門の知識と技術をもって、職場や地域社会に貢献することができる能力を身につける科目である。また、上肢作業機能回復に必要な評価、および治療を最新のEBM (evidence based medicine) に基づいて分析、研究、解明できる人材を育てるための科目である。				
授業の概要	上肢機能に関連する最新の臨床・研究の現状を理解し、今後の研究課題の立案とそれを解明するための手法を学ぶ。特に上肢作業機能に関連の英語論文を系統的に分析し、その科学性について討議することで理解を深める。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 上肢作業機能回復に必要な肩・肘・手関節外科に関する最新の治療法や手術手技を理解し、EBMに基づいたアプローチを実践できる。</li> <li>2. 上肢作業機能障害に関する最新の予防的アプローチ、作業機能回復のためのリハビリテーションアプローチを実践できる。</li> <li>3. 上肢作業機能障害及びアプローチに関する最新の文献に触れることで、研究課題を立案できる。</li> </ol>				
授業の方法	配布資料による説明をした後、実技を行うことで、上肢作業機能回復のための適切な治療アプローチを習得する。また、ゼミ形式で症例検討や英文抄読を行い、最新の知見や研究動向を理解するとともにプレゼンテーション能力、研究能力、論文作成能力を培う。可能な範囲でオンライン授業を活用して実施する。				
ICT活用	なし				
実務経験のある教員の教育内容	指導にあたる両教員は10年以上に渡る実務経験があり、この経験を活かして指導を行う。				
課題に対するフィードバックの方法	各授業の終わりにディスカッションを行い、理解を深める。				
授業計画	学習内容	準備学習および必要時間(分)	事後学習および必要時間(分)		
1	蓄積外傷疾患(屈筋腱狭性腱鞘炎)に対する評価・治療手技の実践演習(装具療法)(金子)	演習項目ごとに関連する文献を予習しておくこと(30分)	レポートを作成すること(120分)		
2	蓄積外傷疾患(屈筋腱狭性腱鞘炎)に対する評価・治療手技の実践演習(徒手療法・運動療法)(金子)	演習項目ごとに関連する文献を予習しておくこと(30分)	レポートを作成すること(120分)		
3	蓄積外傷疾患(手根管症候群)に対する評価・治療手技の実践演習(徒手療法・運動療法)(金子)	演習項目ごとに関連する文献を予習しておくこと(30分)	レポートを作成すること(120分)		
4	蓄積外傷疾患(手根管症候群)に対する評価・治療手技の実践演習(装具療法)(金子)	演習項目ごとに関連する文献を予習しておくこと(30分)	レポートを作成すること(120分)		
5	蓄積外傷疾患(短母指伸筋腱・長母指外転筋腱狭性腱鞘炎および手関節伸展筋腱鞘炎)に対する評価・治療手技の実践演習(徒手療法・運動療法)(金子)	演習項目ごとに関連する文献を予習しておくこと(30分)	レポートを作成すること(120分)		
6	蓄積外傷疾患(短母指伸筋腱・長母指外転筋腱狭性腱鞘炎および手関節伸筋腱鞘炎)に対する評価・治療手技の実践演習(装具療法)(金子)	演習項目ごとに関連する文献を予習しておくこと(30分)	レポートを作成すること(120分)		
7	英文抄読 蓄積外傷疾患に関連の英語論文を系統的に分析し、その科学性について討議する(金子)	英文抄読のを準備すること(150分)	なし		
8	表面筋電図を用いた上肢運動の解析法について(白戸)	演習項目ごとに関連する文献を予習しておくこと(30分)	レポートを作成すること(120分)		
9	ハンドセラピー 評価とスプリントを用いた治療手技の実践演習1(白戸)	演習項目ごとに関連する文献を予習しておくこと(30分)	レポートを作成すること(120分)		
10	ハンドセラピー 評価とスプリントを用いた治療手技の実践演習2(白戸)	演習項目ごとに関連する文献を予習しておくこと(30分)	レポートを作成すること(120分)		
11	症例検討1 後方視的に文献を含めた考察を行い、アプローチの科学性を討議する(白戸)	症例検討のプレゼンを準備すること(150分)	なし		
12	英文抄読1 上肢作業機能に関連の英語論文を系統的に分析し、その科学性について討議する(白戸)	英文抄読のを準備すること(150分)	なし		
13	症例検討2 後方視的に文献を含めた考察を行い、アプローチの科学性を討議する(白戸)	症例検討のプレゼンを準備すること(150分)	なし		
14	英文抄読2 上肢作業機能に関連の英語論文を系統的に分析し、その科学性について討議する(白戸)	英文抄読のを準備すること(150分)	なし		
15	英文抄読3 上肢作業機能に関連の英語論文を系統的に分析し、その科学性について討議する(白戸)	英文抄読のを準備すること(150分)	なし		

成績評価の方法

区分	割合 (%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試験以外 (授業内の課題・参加度・出席態度等)	100	レポート提出課題など
その他	0	

教科書	指定しない
参考文献	随時、紹介する
履修条件・留意事項等	臨床において上肢運動器障害のリハビリテーションを経験していること。同特論を履修していることが望ましい。
備考欄	

科目名		ナンバリング	単位	配当年次	開講期
250150R1 神経障害学特論		5540	2	1	前期
教員氏名	横井 裕一郎、牧野 均、村上 優衣、金谷 匡紘				
授業の位置づけ	神経障害全般のリハビリテーションに関する専門的知識を獲得するための科目である。				
授業の概要	神経障害は身体構造、心身機能、活動レベル、さらに社会参加など、Quality of life (QOL, 生活の質)に大きく影響するものである。本科目では、神経障害の様々な臨床像を学習し、評価、治療に関する知識を深める。また子どもから大人までの神経障害を学習し、研究を立案する際に、現在理解されている障害についてより知識を深める。対象者に貢献できるリハビリテーションの具体的な内容を提案するための、基礎知識から評価や治療に関する最新の知見、さらには研究的視点を学習する。				
到達目標	1. 神経障害学全般について基本的知識を習得する 2. 多様な神経障害のうち特に、基底核・小脳障害、運動ニューロン障害、脊髄障害、高次脳機能障害を含む疾患について、症候学から評価法に至る過程を習得する 3. おもな神経疾患について、根拠を示しながらより効果的なリハビリテーション治療学を学習する				
授業の方法	パワーポイントや配布印刷物を活用しながら、講義形式あるいはゼミ形式で進める。				
ICT活用	遠隔授業の実施、論文・資料共有、課題フィードバックにウェブを活用する。				
実務経験のある教員の教育内容	病院施設での実務経験を有する教員が担当している。				
課題に対するフィードバックの方法	講義ごとに出されたテーマや課題に対して討論を行い、得られた知識の確認を行う。 提出されたレポートに対して、不足があれば補足説明を行う。				
授業計画	学習内容	準備学習および必要時間(分)	事後学習および必要時間(分)		
1	オリエンテーション、神経障害リハビリテーションの歴史 (横井裕一郎)	なし	講義で紹介した文献と資料を復習すること。(180分)		
2	神経解剖とその機能 (村上優衣)	事前に提示した文献・資料を読んでまとめること。(120分)	講義で紹介した文献と資料を復習すること。(60分)		
3	神経障害の陽性徴候① ・筋緊張の亢進と評価(横井裕一郎)	事前に提示した文献・資料を読んでまとめること。(120分)	講義で紹介した文献と資料を復習すること。(60分)		
4	神経障害の陽性徴候② ・不随意運動・運動失調と評価(横井裕一郎)	事前に提示した文献・資料を読んでまとめること。(120分)	講義で紹介した文献と資料を復習すること。(60分)		
5	高次脳機能障害の病態像とリハビリテーション①(牧野均)	事前に提示した文献・資料を読んでまとめること。(120分)	講義で紹介した文献と資料を復習すること。(180分)		
6	高次脳機能障害の病態像とリハビリテーション②(金谷匡紘)	事前に提示した文献・資料を読んでまとめること。(120分)	講義で紹介した文献と資料をまとめること。(60分)		
7	高次脳機能障害の病態像とリハビリテーション③(村上優衣)	事前に提示した文献・資料を読んでまとめること。(120分)	講義で紹介した文献と資料を復習すること。(180分)		
8	脳血管障害の病態像とリハビリテーション①(牧野均)	事前に提示した文献・資料を読んでまとめること。(120分)	講義で紹介した文献と資料を復習すること。(180分)		
9	脳血管障害の病態像とリハビリテーション②(村上優衣)	事前に提示した文献・資料を読んでまとめること。(120分)	講義で紹介した文献と資料を復習すること。(180分)		
10	脳血管障害の病態像とリハビリテーション③(金谷匡紘)	事前に提示した文献・資料を読んでまとめること。(120分)	講義で紹介した文献と資料を復習すること。(180分)		
11	脊髄損傷の病態像とリハビリテーション(牧野均)	事前に提示した文献・資料を読んでまとめること。(120分)	講義で紹介した文献と資料を復習すること。(180分)		
12	脳性まひの病態像とリハビリテーション(横井裕一郎)	事前に提示した文献・資料を読んでまとめること。(120分)	講義で紹介した文献と資料を復習すること。(180分)		
13	重症心身障害児者の病態像と障害評価・リハビリテーション(横井裕一郎)	事前に提示した文献・資料を読んでまとめること。(120分)	講義で紹介した文献と資料を復習すること。(180分)		
14	神経障害に対する従来リハビリテーション(横井裕一郎)	事前に提示した文献・資料を読んでまとめること。(120分)	講義で紹介した文献と資料を復習すること。(180分)		
15	神経障害に対するニューロリハビリテーション(村上優衣)	事前に提示した文献・資料を読んでまとめること。(120分)	講義で紹介した文献と資料を復習すること。(90分)		

成績評価の方法		
区分	割合 (%)	内容
定期試験	0	



定期試験以外（授業内の課題・参加度・出席態度等）	100	授業への参加態度（発言内容を含む）とレポート課題より総合的に評価
その他	0	

教科書	適宜、配布
参考文献	授業時に指示
履修条件・留意事項等	特記事項なし
備考欄	

科目名		ナンバリング	単位	配当年次	開講期
250160R1	神経障害学特論演習	5542	2	1	後期
教員氏名	横井 裕一郎、牧野 均、村上 優衣、金谷 匡紘				
授業の位置づけ	リハビリテーション分野に関する専門的な知識と技術をもって、社会に貢献できる能力や高い臨床研究能力を涵養する科目である。				
授業の概要	神経障害分野のリハビリテーションの対象である脳血管障害および神経難病、脳性まひなどに関する病態生理、障害の評価と運動解析、さらに機能回復に関連するメカニズムについて学ぶ。				
到達目標	1. 脳血管障害の病態について、リハビリテーションに関連する最近の研究成果を説明できる。 2. 神経障害分野のリハビリテーションに関連する最近の研究成果を説明できる。 3. 症例ごとに異なる病態・障害に着目して、最も適したリハビリテーション治療を提案することができる。 4. 最新のニューロリハビリテーションを研究成果から学習し、各自の専門分野への応用を考察できる				
授業の方法	臨症的・実践的な技能を深めるために「グループ討論」を多く取り入れ、必要に応じて座学講義形態も織り交ぜる。				
ICT活用	遠隔授業の実施、論文、資料の共有、および課題フィードバックを必要に応じてICTを活用する				
実務経験のある教員の教育内容	病院施設での実務経験を有する教員が担当している。				
課題に対するフィードバックの方法	授業内で提示された課題や討論の内容について、授業内でフィードバックする。				
授業計画	学習内容	準備学習および必要時間(分)	事後学習および必要時間(分)		
1	オリエンテーション 神経障害リハビリテーションとその歴史 (横井裕一郎)	事前課題を学習すること (60分)	講義内容をまとめて復習すること (60分)		
2	神経解剖とその機能(村上優衣)	事前に配布した論文を読んでまとめてくること(90分)	講義内容をまとめて復習すること (60分)		
3	神経障害の陽性徴候① 筋緊張の評価(横井裕一郎)	事前に配布した論文を読んでまとめてくること(90分)	講義内容をまとめて復習すること (30分)		
4	神経障害の陽性徴候② 不随意運動・運動失調(横井裕一郎)	事前に配布した論文を読んでまとめてくること(90分)	講義内容をまとめて復習すること (30分)		
5	高次脳機能障害のリハビリテーション① fMRIによる画像評価(牧野均)	テーマに沿った基礎知識を確認しておくこと(60分)	講義内容をまとめて復習すること (60分)		
6	高次脳機能障害のリハビリテーション②(金谷匡紘)	テーマに沿った基礎知識を確認しておくこと(60分)	講義内容をまとめて復習すること (60分)		
7	高次脳機能障害のリハビリテーション③(村上優衣)	テーマに沿った文献を読んでまとめておくこと(60分)	講義内容をまとめて復習すること (60分)		
8	脳血管障害① 身体イメージ・運動イメージの再獲得とリハビリテーション(牧野均)	脳卒中後の運動機能について、文献を読んでまとめておくこと (60分)	講義内容をまとめて復習すること (60分)		
9	脳血管障害② 脳機能計測の応用(村上優衣)	脳機能計測について、基礎知識を確認しておくこと(60分)	講義内容をまとめて復習すること (60分)		
10	脳血管障害③(金谷匡紘)	テーマに沿った基礎知識を確認しておくこと(60分)	講義内容をまとめて復習すること (60分)		
11	脊髄損傷のリハビリテーション(牧野均)	脊髄損傷の基礎知識を確認しておくこと(60分)	講義内容をまとめて復習すること (60分)		
12	脳性まひのリハビリテーション GMFM、治療(横井裕一郎)	脳性まひの基礎知識を確認しておくこと(60分)	講義内容をまとめて復習すること (60分)		
13	重症心身障害のリハビリテーション 評価、ポジショニング、摂食援助(横井裕一郎)	重症心身障害児者の文献を読んで、まとめておくこと(60分)	講義内容をまとめて復習すること (60分)		
14	発達性協調運動障害のリハビリテーション(横井裕一郎)	事前配布した論文の内容をまとめておくこと(60分)	講義内容をまとめて復習すること (60分)		
15	ニューロリハビリテーション(村上優衣)	最新のニューロリハビリテーションについて、論文を読んでまとめておくこと(60分)	講義内容をまとめて復習すること (60分)		

成績評価の方法

区分	割合 (%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外 (授業内の課題・参加度・出席態度等)	100	レポート課題と意見交換や議論への参加状況より総合的に評価
その他	0	

教科書	適宜、配布
参考文献	授業時に指示
履修条件・留意事項等	神経障害学特論を履修していることが望ましい
備考欄	

科目名		ナンバリング	単位	配当年次	開講期
250170R1	高齢者リハビリテーション学特論	5545	2	1	前期
教員氏名	佐々木 幸子、玉 珍、小林 英司				
授業の位置づけ	リハビリテーションに関わる地域や時代のニーズを的確に把握し、幅広い視野を獲得するための科目である。 リハビリテーションに関する専門の知識を獲得するための科目である。 高齢者リハビリテーション学特論演習の基礎となる。				
授業の概要	本講義では高齢者の諸問題を包括的な視点で捉え、介護予防の視点も含めた多角的なリハビリテーションアプローチを展開するために必要な基本的知識、方法論について概説する。介護予防及び高齢者を対象としたリハビリテーションについて、その理論的背景、評価・実践技法、効果判定方法などを考究することを目的とする。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心身機能、社会的機能を含めた包括的な高齢者の特徴について説明できる。</li> <li>・介護予防及び高齢者に対するリハビリテーションの評価・分析方法について、具体的手法とその理論的背景を説明できる。</li> <li>・介護予防及び高齢者に対するリハビリテーションの実践指導法について、その理論的背景、効果判定、効果機序を説明できる。</li> </ul>				
授業の方法	配布資料を活用しながら、講義形式とゼミ形式を併用して進める。 講義中に提示した課題について、学生がプレゼンテーションを行う。 論文抄読の回は事前に論文を配布し、内容をまとめたものを担当学生が発表する。				
ICT活用	Webアプリを用いた双方向授業を取り入れる				
実務経験のある教員の教育内容	担当教員は老年期障害に対する理学療法、作業療法の実務経験があり、高齢者リハビリテーション学について幅広い知識を有している。この経験を活かして指導を行う。				
課題に対するフィードバックの方法	各回の講義テーマや課題に対して討論を行い、得られた知識の確認を行う。 レポートにコメントを付して返却する。				
授業計画	学習内容	準備学習および必要時間(分)	事後学習および必要時間(分)		
1	加齢に伴う身体、精神・心理、社会的機能（佐々木）	関連事項について文献を読み理解を深めておく。(90分)	関連事項について文献を読み理解を深めておく。(90分)		
2	フレイル、サルコペニアの評価、治療、予防介入に関する最新の知見（佐々木）	関連事項について文献を読み理解を深めておく。(90分)	関連事項について文献を読み理解を深めておく。(90分)		
3	フレイル、サルコペニアに関する国内外の現状と課題（佐々木）	関連事項について文献を読み理解を深めておく。(90分)	関連事項について文献を読み理解を深めておく。(90分)		
4	高齢者の身体活動に関する国内外の現状と課題（佐々木）	関連事項について文献を読み理解を深めておく。(90分)	関連事項について文献を読み理解を深めておく。(90分)		
5	高齢者の社会活動に関する国内外の現状と課題（佐々木）	関連事項について文献を読み理解を深めておく。(90分)	関連事項について文献を読み理解を深めておく。(90分)		
6	COVID-19パンデミックによる高齢者への影響（佐々木）	関連事項について文献を読み理解を深めておく。(90分)	関連事項について文献を読み理解を深めておく。(90分)		
7	認知症患者数の増加が現代社会に及ぼすインパクト（小林）	関連事項について文献を読み理解を深めておく。(90分)	関連事項について文献を読み理解を深めておく。(90分)		
8	アルツハイマー型認知症の病院解明研究と治療法開発の現状（小林）	関連事項について文献を読み理解を深めておく。(90分)	関連事項について文献を読み理解を深めておく。(90分)		
9	アルツハイマー型認知症の新たな増加抑制戦略：The Nun Studyの報告から考える（小林）	関連事項について文献を読み理解を深めておく。(90分)	関連事項について文献を読み理解を深めておく。(90分)		
10	高齢者に多い神経変性疾患とリハビリテーション①：パーキンソン病（小林）	関連事項について文献を読み理解を深めておく。(90分)	関連事項について文献を読み理解を深めておく。(90分)		
11	高齢者に多い神経疾患とリハビリテーション②：脳血管障害（小林）	関連事項について文献を読み理解を深めておく。(90分)	関連事項について文献を読み理解を深めておく。(90分)		
12	神経リハビリテーションのこれまでとこれから：歴史の変遷からの考察（小林）	関連事項について文献を読み理解を深めておく。(90分)	関連事項について文献を読み理解を深めておく。(90分)		
13	高齢者のリハビリテーション評価・分析（玉）	関連事項について文献を読み理解を深めておく。(90分)	関連事項について文献を読み理解を深めておく。(90分)		
14	高齢者の日常生活介入・環境調整（玉）	関連事項について文献を読み理解を深めておく。(90分)	関連事項について文献を読み理解を深めておく。(90分)		
15	高齢者リハビリテーションの現状と課題（玉）	関連事項について文献を読み理解を深めておく。(90分)	関連事項について文献を読み理解を深めておく。(90分)		

成績評価の方法		
区分	割合 (%)	内容

定期試験	0	定期試験は行わない
定期試験以外（授業内の課題・参加度・出席態度等）	100	レポート課題
その他	0	なし

教科書	なし
参考文献	特になし
履修条件・留意事項等	特になし
備考欄	

科目名		ナンバリング	単位	配当年次	開講期
250180R1	高齢者リハビリテーション学特論演習	5547	2	1	後期
教員氏名	佐々木 幸子、玉 珍、小林 英司				
授業の位置づけ	リハビリテーションに関わる地域や時代のニーズを的確に把握し、幅広い視野で柔軟に対応するための科目である。リハビリテーションに関する専門の知識と技術をもって他職種との協働を理解し、指導的な役割を果たすための科目である。リハビリテーション科学特別研究の基礎となる。				
授業の概要	近年、医療・保健福祉の分野においては高齢者の諸問題を包括的に捉え、介護予防の視点も含めた多角的なリハビリテーションアプローチを実践することが求められている。本演習では多様な問題を抱える高齢者に対するリハビリテーション及び介護予防の効果的な実践方法について考究することを目的とする。文献抄読などを通して、先行研究の問題点と課題を考察・討論し、具体的な実践や研究に利用できる基礎能力を養成する。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者のリハビリテーション・及び介護予防に関する先行研究に基づき、実践や研究の現状、問題点と課題を述べることができる。</li> <li>・学習した知識に基づいて、高齢者のリハビリテーション及び介護予防に関する研究目的、対象、手法を具体的に想定した研究実施計画書を作成することができる。</li> </ul>				
授業の方法	配付資料や各自が収集した資料を活用しながら演習形式で進める。				
ICT活用	Webアプリを用いた双方向授業を取り入れる。				
実務経験のある教員の教育内容	担当教員は老年期障害に対する理学療法・作業療法の実務経験があり、高齢者リハビリテーション学について幅広い知識を有している。この経験を活かして指導を行う。				
課題に対するフィードバックの方法	各回の課題に対して発表や討論を行い、得られた知識の確認を行う。レポートにコメントを付して返却する。				
授業計画	学習内容	準備学習および必要時間(分)	事後学習および必要時間(分)		
1	国内外の高齢者を対象とした疫学研究の紹介と論文の批判的吟味(佐々木)	なし	授業で紹介した文献と配布した資料を復習すること。(180分)		
2	フレイル、サルコペニア(佐々木) 評価法の実践と研究への応用	紹介された文献を予習すること。(90分)	資料の内容を復習すること。(90分)		
3	文献抄読(佐々木) フレイル、サルコペニアをテーマとした研究論文の批判的吟味を行い、その課題と自身研究への応用について討議する。	課題に関する文献を収集、抄読し発表用資料を作成すること。(90分)	資料の内容を復習すること。(90分)		
4	高齢者の身体活動(佐々木) 評価法の実践と研究への応用	紹介された文献を予習すること。(90分)	資料の内容を復習すること。(90分)		
5	文献抄読(佐々木) 国内外の身体活動をテーマとした研究論文の批判的吟味を行い、その課題と自身の研究への応用について検討する。	課題に関する文献を収集、抄読し発表用資料を作成すること。(90分)	資料の内容を復習すること。(90分)		
6	課題発表(佐々木) 介護予防をテーマとした研究計画を立案し発表、討議する	発表用資料の作成。(90分)	資料の内容を復習すること。(90分)		
7	高齢期に好発する神経疾患とリハビリテーション：関連する研究論文の紹介(小林)	課題に関する文献を収集し検討すること。(90分)	資料の内容を復習すること。(90分)		
8	パーキンソン病患者を対象とした主要な研究の紹介と論文精読(小林)	課題に関する文献を収集し検討すること。(90分)	資料の内容を復習すること。(90分)		
9	パーキンソン病患者のリハビリテーションにおける評価尺度と評価法(小林)	紹介された文献を予習すること。(90分)	資料の内容を復習すること。(90分)		
10	脳血管障害患者のリハビリテーションに関連する主要な文献の紹介と論文精読(小林)	紹介された文献を予習すること。(90分)	資料の内容を復習すること。(90分)		
11	脳血管障害患者のリハビリテーションに関連した評価尺度及び評価法の実践(小林)	紹介された文献を予習すること。(90分)	資料の内容を復習すること。(90分)		
12	課題発表と討議(小林)	課題に関する文献を収集し検討すること。(90分)	資料の内容を復習すること。(90分)		
13	認知症に関する国内外の最新研究(玉)	課題に関する文献を収集し検討すること。(90分)	資料の内容を復習すること。(90分)		
14	認知症に関する文献検討(玉)	紹介された文献を予習すること。(90分)	資料の内容を復習すること。(90分)		

15	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「生きがい」とは</li> <li>・「生きがい」を構成する要素とリハビリテーション (玉)</li> </ul>	紹介された文献を予習すること。(90分)	資料の内容を復習すること。(90分)
----	---	----------------------	--------------------

成績評価の方法		
区分	割合 (%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外 (授業内の課題・参加度・出席態度等)	100	レポート課題
その他	0	

教科書	なし
参考文献	なし
履修条件・留意事項等	高齢者リハビリテーション学特論を基礎とする科目だが、本科目だけの履修も可能
備考欄	

科目名		ナンバリング	単位	配当年次	開講期
250190R1		ヘルスプロモーション学特論	5560	2	1 前期
教員氏名	野田 美保子				
授業の位置づけ	根拠に基づくリハビリテーションの実践のために問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、論理的な解決法を見出す能力を養うための科目である。ヘルスプロモーション学特論演習の基礎となる。				
授業の概要	①ヘルスプロモーションの意義と歴史について、世界、日本、地域の視点から学ぶ。 ②ヘルスプロモーションの捉え方を学び、ヘルスプロモーションの現状の問題点を今後の対応方法を学ぶ。 ③学生自身がヘルスプロモーションに関連するテーマを考え、それを探求する。				
到達目標	①ヘルスプロモーションの意義と歴史について世界と日本、地域の状況を説明できる。 ②ヘルスプロモーションの捉え方を説明できる。 ③ヘルスプロモーションの今後の課題を明らかにして、その解決のための方法を探ることができる。				
授業の方法	主としてパワーポイントと配布印刷物を用いた講義形式ですすめる。 必要に応じて学生による発表とそれに対するディスカッションを行う。				
ICT活用	なし				
実務経験のある教員の教育内容	作業療法士として40年勤務した経験を活かしてヘルスプロモーションの重要性について授業を行う。				
課題に対するフィードバックの方法	講義ごとに出されたテーマや課題に対して討論を行い、得られた知識の確認を行う。 レポートにコメントを付けて返却する。				
授業計画	学習内容	準備学習および必要時間(分)	事後学習および必要時間(分)		
1	オリエンテーション 健康の定義	なし	講義の内容について復習すること。(180分)		
2	ヘルスプロモーションの意義と歴史について(世界の状況)	前回の講義で提示された課題を予習すること。(90分)	講義の内容について復習すること。(60分)		
3	ヘルスプロモーションの意義と歴史について(日本の状況)	前回の講義で提示された課題の予習をすること。(90分)	講義の内容について復習すること。(90分)		
4	ICD-10とヘルスプロモーションの関係	前回の講義で提示された課題の予習をすること。(90分)	講義の内容について復習すること。(60分)		
5	ICFとヘルスプロモーションの関係	前回の講義で提示された課題の予習をすること。(90分)	講義の内容について復習すること。(90分)		
6	ヘルスプロモーションとリハビリテーション-Disuse Syndrome-	前回の講義で提示された課題の予習をすること。(90分)	講義の内容について復習すること。(90分)		
7	ヘルスプロモーションとリハビリテーション-Disuse Syndrome対策-	前回の講義で提示された課題の予習をすること。(90分)	講義の内容について復習すること。(90分)		
8	ヘルスプロモーションと地域リハビリテーション-「生活機能」全体の活性化の重要性について-	前回の講義で提示された課題の予習をすること。(90分)	講義の内容について復習すること。(90分)		
9	ヘルスプロモーションと地域リハビリテーション-「生活機能」全体の活性化の現状と課題-	前回の講義で提示された課題の予習をすること。(90分)	講義の内容について復習すること。(90分)		
10	作業科学の視点から見るヘルスプロモーションアプローチ	前回の講義で提示された課題の予習をすること。(90分)	講義の内容について復習すること。(90分)		
11	作業科学の視点から見るヘルスプロモーションアプローチの現状と課題	前回の講義で提示された課題の予習をすること。(90分)	講義の内容について復習すること。(90分)		
12	ヘルスプロモーションに関連する研究疑問と発表(1)	発表の準備をすること。(120分)	講義の内容について復習すること。(60分)		
13	ヘルスプロモーションに関連する研究疑問と発表(2)	発表の準備をすること。(120分)	講義の内容について復習すること。(60分)		
14	ヘルスプロモーションに関連する研究疑問と発表(3)	発表の準備をすること。(120分)	講義の内容について復習すること。(60分)		
15	まとめ(最終レポート課題提示)	課題についてレポートを作成すること。(120分)	レポートについて再検討すること。(60分)		

成績評価の方法		
区分	割合(%)	内容
定期試験	0	



定期試験以外（授業内の課題・参加度・出席態度等）	100	授業への参加度、レポート課題
その他	0	

教科書	特に定めない
参考文献	適宜、参考資料を配布する。その他、必要に応じて各自で検索すること。
履修条件・留意事項等	特になし
備考欄	

科目名		ナンバリング	単位	配当年次	開講期
250200R1		ヘルスプロモーション学特論演習	5562	2	1 後期
教員氏名	野田 美保子				
授業の位置づけ	根拠に基づくリハビリテーションの実践のために問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、論理的な解決法を見いだす能力を養うための演習科目である。ヘルスプロモーション学特論を基礎とする。				
授業の概要	①ヘルスプロモーションに関する国外・国内の文献を検査し、現状と問題点を把握し、その対策を検討する。 ②学習した知識に基づいて実際にヘルスプロモーション活動を模擬的に計画する。 ③ヘルスプロモーションに関連する研究テーマを考え、自ら調べて発表する。				
到達目標	①ヘルスプロモーションに関する国外・国内の文献を検査し、現状と問題点を把握し、その対策を検討できる。 ②学習した知識に基づいて実際にヘルスプロモーション活動を模擬的に計画できる。 ③ヘルスプロモーションに関連する研究テーマを考え、自ら調べて発表できる。				
授業の方法	ゼミ形式で発表、ディスカッションを行う。				
ICT活用	なし				
実務経験のある教員の教育内容	作業療法士として40年勤務した経験を活かしてヘルスプロモーションの重要性について授業を行う。				
課題に対するフィードバックの方法	課題発表に対して毎回討論を行い、知識や論理的思考等について確認を行う。 レポート等に対してコメントを付して返却する。				
授業計画	学習内容	準備学習および必要時間(分)	事後学習および必要時間(分)		
1	オリエンテーション 課題の提示 各自のメインテーマ決定	なし	授業内容について復習する。(180分)		
2	世界が推進しているヘルスプロモーション活動の状況を理解し問題点とその対策を検討する。 (英語文献検討①)	課題発表の準備をする。(120分)	授業内容について復習する。(60分)		
3	世界が推進しているヘルスプロモーション活動の状況を理解し問題点とその対策を検討する。 (英語文献検討②)	課題発表の準備をする。(120分)	授業内容について復習する。(60分)		
4	世界が推進しているヘルスプロモーション活動の状況を理解し問題点とその対策を検討する。 (英語文献検討③)	課題発表の準備をする。(120分)	授業内容について復習する。(60分)		
5	日本が推進しているヘルスプロモーション活動の状況を理解し問題点とその対策を検討する。 (文献検討①)	課題発表の準備をする。(120分)	授業内容について復習する。(60分)		
6	日本が推進しているヘルスプロモーション活動の状況を理解し問題点とその対策を検討する。 (文献検討②)	課題発表の準備をする。(120分)	授業内容について復習する。(60分)		
7	日本が推進しているヘルスプロモーション活動の状況を理解し問題点とその対策を検討する。 (文献検討③)	課題発表の準備をする。(120分)	授業内容について復習する。(60分)		
8	地域が推進しているヘルスプロモーション活動の状況を理解し問題点とその対策を検討する。 (文献検討①)	課題発表の準備をする。(120分)	授業内容について復習する。(60分)		
9	地域が推進しているヘルスプロモーション活動の状況を理解し問題点とその対策を検討する。 (文献検討②)	課題発表の準備をする。(120分)	授業内容について復習する。(60分)		
10	地域が推進しているヘルスプロモーション活動の状況を理解し問題点とその対策を検討する。 (文献検討③)	課題発表の準備をする。(120分)	授業内容について復習する。(60分)		
11	地域におけるヘルスプロモーション活動について計画を立案する。 (模擬的試案作成①)	課題発表の準備をする。(120分)	授業内容について復習する。(60分)		
12	地域におけるヘルスプロモーション活動について計画を立案する。 (模擬的試案作成②)	課題発表の準備をする。(120分)	授業内容について復習する。(60分)		
13	ヘルスプロモーションに関連するテーマの研究発表(1) (パワーポイントによるプレゼン、1人30分)	課題発表の準備をする。(120分)	授業内容について復習する。(60分)		
14	ヘルスプロモーションに関連するテーマの研究発表 (2) (パワーポイントによるプレゼン、1人30分)	課題発表の準備をする。(120分)	授業内容について復習する。(60分)		

15	レポート提出	課題提出の準備をする。(120分)	授業内容について復習する。(60分)
----	--------	-------------------	--------------------

成績評価の方法		
区分	割合 (%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外 (授業内の課題・参加度・出席態度等)	100	授業への参加度、レポート課題
その他	0	

教科書	特になし
参考文献	必要に応じて各自検索こと。
履修条件・留意事項等	ヘルスプロモーション学特論を履修していることが望ましい。
備考欄	

科目名		ナンバリング	単位	配当年次	開講期
250310R1 職業リハビリテーション学特論		5565	2	1	前期
教員氏名	大川 浩子				
授業の位置づけ	リハビリテーション分野に関わる地域や時代のニーズを的確に把握し、幅広い視野で柔軟に対応することができるようになるための科目である。「リハビリテーション科学特別研究」の基礎となる科目である。				
授業の概要	障害当事者の生活において、「職業」はリカバリーにかかわる重要な作業である。本特論では、障害当事者に対する生活支援について職業リハビリテーションの側面から学ぶ。特に、近年注目される精神障害、発達障害等の多様な特性を持つ障害当事者の職業リハビリテーションの現状を理解し、課題について考察する。				
到達目標	1) 障害当事者の生活における「職業」の重要性を理解し、必要な諸制度を述べることができる。 2) 障害当事者の職業リハビリテーションの現状と課題について具体的に述べるができる。 3) 精神障害、発達障害当事者に対する具体的な就労支援の方法を述べるができる。				
授業の方法	配布資料と教科書による講義とディスカッションで行う。				
ICT活用	なし				
実務経験のある教員の教育内容	精神科病院、デイケアでの勤務の中で就労支援の経験があり、特に精神障害・発達障害の就労支援に対する幅広い知識を有している。この経験を活かして指導を行う。				
課題に対するフィードバックの方法	課題についてはコメントを付けて返却します。発表についてはその場でコメントします。				
授業計画	学習内容	準備学習および必要時間(分)	事後学習および必要時間(分)		
1	オリエンテーション 職業リハビリテーションの定義と国内外の動向	教科書P1～57を読むこと。(90分)	関連する論文を検索し、読むこと。(90分)		
2	我が国における職業リハビリテーションのシステムと課題	教科書P58～72を読むこと。(90分)	関連する論文を検索し、読むこと。(90分)		
3	職業リハビリテーションの視点と流れ：アセスメントを中心に	教科書P92～133を読むこと。(90分)	関連する論文を検索し、読むこと。(90分)		
4	職業リハビリテーションに用いられる評価	職業リハビリテーションに用いることが可能と思われる評価法について列挙すること。(90分)	関連する論文を検索し、読むこと。(90分)		
5	領域ごとの就労支援①：知的障害領域、精神障害領域、発達障害領域	教科書P284～291を読むこと。(90分)	関連する論文を検索し、読むこと。(90分)		
6	領域ごとの就労支援②：その他の障害と就労支援が必要な領域の広がり	教科書P274～283、294～295を読むこと。(90分)	関連する論文を検索し、読むこと。(90分)		
7	職業生活の実際：就労する障害当事者と就労支援実践者の講演1	1～6回目の講義での疑問点をまとめること。(90分)	関連する論文を検索し、読むこと。(90分)		
8	職業生活の実際：就労する障害当事者と就労支援実践者の講演2	我が国の就労支援に関する論文を検索し、読むこと。(90分)	関連する論文を検索し、読むこと。(90分)		
9	職業リハビリテーションの技法①：復職支援について（EAP、リワーク等）	教科書P215～232を読むこと。(90分)	関連する論文を検索し、読むこと。(90分)		
10	職業リハビリテーションの技法②：ジョブコーチ等環境への介入について	教科書P134～180を読むこと。(90分)	関連する論文を検索し、読むこと。(90分)		
11	職業リハビリテーションの視点①：ストレングスモデル	事前に配布する資料を読んでおくこと。(90分)	関連する論文を検索し、読むこと。(90分)		
12	職業リハビリテーションの視点②：就労の継続とキャリアデザイン	教科書P183～214を読むこと。(90分)	関連する論文を検索し、読むこと。(90分)		
13	発表に向けて；手順、テーマ設定	自分の興味のある論文を集め、テーマ設定について考えること。(60分)	自分の設定したテーマについて調べ、まとめる。(120分)		
14	各自のテーマに基づいた発表とディスカッション	自分の設定したテーマについて、プレゼンテーションの練習をする。(90分)	講義内でのディスカッションを踏まえ、不足していた点について調べる。(90分)		
15	まとめ	1～14回目の講義で得られたことと疑問点をまとめること。(90分)	講義内でのディスカッションを踏まえ、不足していた点について調べる。(90分)		

成績評価の方法		
区分	割合 (%)	内容

定期試験	0	
定期試験以外（授業内の課題・参加度・出席態度等）	100	授業における態度、課題提出をもって総合的に判断する。
その他	0	

教科書	職業リハビリテーションの基礎と実践/日本職業リハビリテーション学会編/中央法規出版 配布資料	
参考文献	職業リハビリテーション学 改訂第2版 / 松為信雄・他編/協同医書出版	
履修条件・留意事項等	特になし	
備考欄		

科目名		ナンバリング	単位	配当年次	開講期
250320R1 職業リハビリテーション学特論演習		5567	2	1	後期
教員氏名	大川 浩子				
授業の位置づけ	「職業リハビリテーション学特論」で学んだことを基礎とし、職業リハビリテーション分野で必要となる管理・人材育成の技術を身に付けるための科目である。「リハビリテーション科学特別研究」の基礎となる科目である。				
授業の概要	職業リハビリテーション特論で学んだ知識を基に、具体的なアセスメントや介入方法について学ぶ。更には、職業リハビリテーションにおける組織運営やスーパービジョン、人材育成に関して理解を深め、現場管理者に求められるマネジメントスキルを獲得する。				
到達目標	1)職業リハビリテーションにおけるアセスメントと介入法が説明できる(主に精神障害、発達障害に対する)。 2)職業リハビリテーションにおける人材育成の現状と課題について具体的に述べるができる。 3)職業リハビリテーション分野の管理者に必要なマネジメントスキルをあげることができる。				
授業の方法	配布資料による講義とディスカッションで行う。				
ICT活用	なし				
実務経験のある教員の教育内容	精神科病院、デイケアでの勤務の中で就労支援及び管理職の経験があり、特に精神障害・発達障害の就労支援に対する幅広い知識を有している。この経験を活かして指導を行う。				
課題に対するフィードバックの方法	課題についてはコメントを付けて返却します。発表についてはその場でコメントします。				
授業計画	学習内容	準備学習および必要時間(分)	事後学習および必要時間(分)		
1	オリエンテーション 職業リハビリテーションにおけるアセスメントと介入法について	職業リハビリテーション特論で学んだことを復習する(90分)	関連する論文を検索し、読むこと。(90分)		
2	職業リハビリテーションにおけるアセスメントの実際	1回目の講義で提示された課題に取り組むこと。(90分)	関連する論文を検索し、読むこと。(90分)		
3	職業リハビリテーションにおけるアセスメントの課題	2回目の講義で提示された課題に取り組むこと。(90分)	関連する論文を検索し、読むこと。(90分)		
4	職業リハビリテーションのアセスメント実習：ストレングスモデル①	3回目の講義で提示された課題に取り組むこと。(90分)	関連する論文を検索し、読むこと。(90分)		
5	職業リハビリテーションのアセスメント実習：ストレングスモデル②	4回目の講義で提示された課題に取り組むこと。(90分)	関連する論文を検索し、読むこと。(90分)		
6	職業リハビリテーションの介入の実際と課題	5回目の講義で提示された課題に取り組むこと。(90分)	関連する論文を検索し、読むこと。(90分)		
7	職業リハビリテーションの介入：IPSモデル	6回目の講義で提示された課題に取り組むこと。(90分)	関連する論文を検索し、読むこと。(90分)		
8	職業リハビリテーションにおける共同創造	7回目の講義で提示された課題に取り組むこと。(90分)	関連する論文を検索し、読むこと。(90分)		
9	職業リハビリテーションにおける人材育成の現状と課題	8回目の講義で提示された課題に取り組むこと。(90分)	関連する論文を検索し、読むこと。(90分)		
10	職業リハビリテーション従事者への支援①：スーパービジョン	9回目の講義で提示された課題に取り組むこと。(90分)	関連する論文を検索し、読むこと。(90分)		
11	職業リハビリテーション従事者への支援③：組織運営とキャリア形成	10回目の講義で提示された課題に取り組むこと。(90分)	関連する論文を検索し、読むこと。(90分)		
12	職業リハビリテーションの視点②：就労の継続とキャリアデザイン	11回目の講義で提示された課題に取り組むこと。(90分)	関連する論文を検索し、読むこと。(90分)		
13	発表に向けて；手順、テーマ設定	自分の興味のある論文を集め、テーマ設定について考えること。(60分)	自分の設定したテーマについて調べ、まとめる。(120分)		
14	各自のテーマに基づいた発表とディスカッション	自分の設定したテーマについて、プレゼンテーションの練習をする。(90分)	講義内でのディスカッションを踏まえ、不足していた点について調べる。(90分)		
15	まとめ	1～14回目の講義で得られたことと疑問点をまとめること。(90分)	講義内でのディスカッションを踏まえ、不足していた点について調べる。(90分)		

成績評価の方法		
区分	割合 (%)	内容
定期試験	0	

定期試験以外（授業内の課題・参加度・出席態度等）	100	授業における態度、課題提出をもって総合的に判断する。
その他	0	

教科書	適宜講義中に配布します
参考文献	職業リハビリテーションの基礎と実践/日本職業リハビリテーション学会編/中央法規出版 職業リハビリテーション入門改定第2版/松為信雄・他編/協同医書出版、他は講義中に提示します
履修条件・留意事項等	職業リハビリテーション学特論を履修していることが望ましい。
備考欄	

科目名		ナンバリング	単位	配当年次	開講期
250330R1	心身統合健康科学特論	5570	2	1	前期
教員氏名	渡辺 明日香、野田 美保子、金 京室				
授業の位置づけ	ディプロマポリシーの2.「リハビリテーション分野に関わる地域や時代のニーズを的確に把握し、幅広い視野で柔軟に対応することができる。」3.「リハビリテーション分野に関する各専門の知識と技術をもって、職場や地域社会に貢献することができる。」の達成に向けた科目である。「健康増進分野」に位置づけ、ヘルスポモーション学を基礎に置き、身体・精神両機能を統合した広い視野に立ったより効果的なリハ技術を生産するための科目である。				
授業の概要	健康回復・増進メカニズムについて、身体と精神の2元論を超えた身心相互連関に焦点を当てつつ、環境と人の相互作用も含めた統合的理解を志向する科目である。人の心身健康に向けたアプローチにおいて踏まえるべき原則について、統合的思考を継続する態度を養成するために必要な文献購読や議論などを行う。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 身心の二元性と一元性と其の統合のとらえ方について説明できる</li> <li>2. 身心を統合的にとらえて問題解決する必要がある臨床的な問題意識を述べる事ができる。</li> <li>3. 問題の解決法を討議し、解決法を考案して提案できる。</li> <li>4. 各種の心身統合技法と理論に触れ、臨床に生かす可能性を探る。</li> </ol>				
授業の方法	学生の準備として、身心を統合的にとらえる必要のある事象や事例を挙げ、問題意識やキーワードを口頭発表する。そのキーワードを用いて文献検索を行い、授業時間に文献の内容を発表。他の参加者や教員と議論し、問題の解決法を考案する。教員から、各種の心身統合技法や理論の紹介を行う。				
ICT活用	クラウドを教員と院生が共有して文献などを保存し、同じ文献をともに読んだり、考察したりできる環境を整備する。				
実務経験のある教員の教育内容	渡辺はダンス・ムーブメントセラピー (DMT) を多様な分野の対象者に実施してきた認定作業療法士。30数年間の臨床経験を生かし、DMTの効果や指導者の力量形成研究を行ってきた。心身統合を生かした効果的なリハ技術を実際の体験も含め院生とともに探索する。金は中枢神経疾患を中心とした臨床経験を持つ作業療法士。光がヒトの心身に与える影響について研究を行っている。今までに行った研究内容を紹介し、心身統合について考察する。野田は作業療法士歴40年。教育活動と共に、感覚統合理論を含む作業療法、ヘルスポモーションの視点に起つ健康増進活動に携わってきた。自らの経験を振り返り心身統合の観点から整理して提示する。				
課題に対するフィードバックの方法	講義ごとに出てくる課題に対して文献を読み合わせ、コメントしたり、討論したりする。実際に体験した心身統合技法から、様々な気づきを得てその体験を院生・教員間でシェアし合い、さらに深い洞察に至る。				
授業計画	学習内容	準備学習および必要時間(分)	事後学習および必要時間(分)		
1	オリエンテーション (渡辺) 心身統合の考え方を書いた文献 (心理臨床と身体-心身統合セラピーに向けて) についての討議。	事前に提示した文献 (心理臨床と身体-心身統合セラピーに向けて) を読む (90分)	心身を統合的にとらえて問題解決する必要がある事象や事例を挙げ、問題意識をまとめておくこと。(90分)		
2	* 院生の問題意識の発表 (渡辺) * 院生の問題意識に沿った文献1を購読・討論 * DMTまたはリラクゼーション体験	問題意識に沿ってキーワードを数個挙げ、キーワードについて読みたい文献1を検索し説明の準備。(90分)	討論を踏まえ文献2を検索して準備。(90分)		
3	* 院生の問題意識に沿った文献2の購読と討論 (渡辺) * 身心を統合的にとらえる心理技法の紹介 フォーカシングについて説明と体験	学生が選択した文献2を購読し、説明の準備。(90分)	フォーカシングについて復習する。現在の問題意識をまとめて記載しておく(90分)。		
4	* ポリヴェーガル理論について紹介 (渡辺)  自律神経系の3つの下位システムとその機能 神経生理学の臨床利用:安全であること 社会交流システムを使う「あそび」による健康・成長・回復・喜び 自閉症(聴覚過敏)やトラウマ治療へ	自律神経系の解剖について調べる。(90分)	ポリヴェーガル理論の復習(90分)		
5	* マインドフルネスの研究紹介 (渡辺) * マインドフルネス体験	ここまでで不明な点を調べる。(90分)	深まった問題意識をまとめておくこと。(90分)		
6	* 集団ダンス・ムーブメントセラピーのRCTとその効果(渡辺) * DMTまたはリラクゼーション体験	ここまでで不明な点を調べる。(90分)	深まった問題意識をまとめておくこと。(90分)		
7	院生から文献3の紹介。本人の問題意識に照らして、考察したことを発表する。教員・他院生との討論によって考察を深める。(渡辺)	文献3を検索し説明できるように準備。(90分)	深まった問題意識をまとめておくこと。(90分)		



8	研究紹介（金京室） 光がヒトの心身に与える影響に関する研究を一つ紹介し、心身統合について考察する。	心拍変動および胃電位について調べる。（90分）	講義内容を復習すること。（90分）
9	野田の授業の進め方についてのオリエンテーション 感覚統合療法の理論（野田）	ここまでで不明な点を調べる。（90分）	講義の内容について復習すること（90分）
10	感覚統合療法の実技（野田）	前回の講義で提示された課題の準備をすること（90分）	講義の内容について復習すること（90分）
11	感覚統合療法による心身統合の可能性とメカニズム（野田）	前回の講義で提示された課題の準備をすること（90分）	講義の内容について復習すること（90分）
12	発達障害児に対する感覚統合療法実践の進め方（野田）	前回の講義で提示された課題の準備をすること（90分）	講義の内容について復習すること（90分）
13	健康増進活動による理論と実技（野田）	前回の講義で提示された課題の準備をすること（90分）	講義の内容について復習すること（90分）
14	各種体力測定の見直しと実技（野田）	前回の講義で提示された課題の準備をすること（90分）	講義の内容について復習すること（90分）
15	健康増進活動による心身統合のメカニズム（野田） 地域の高齢者に対する健康増進活動指導の進め方	前回の講義で提示された課題の準備をすること（90分）	講義の内容について復習すること（90分）

成績評価の方法		
区分	割合（%）	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外（授業内の課題・参加度・出席態度等）	100	授業中のプレゼンテーション・討論・心身技法体験への積極的な参加を評価する。問題意識の変化と解決法などについてレポートを提出すること。
その他	0	なし

教科書	必要な文献を配布する。
参考文献	ステファン・W・ボージェス：ポリヴェーガル理論入門，春秋社，2018 目幸黙僊ほか：心理臨床におけるからだ，朱鷺書房，2007 その他。
履修条件・留意事項等	発表・討論には積極的に参加すること。
備考欄	

科目名		ナンバリング	単位	配当年次	開講期
250340R1 心身統合健康科学特論演習		5572	2	1	後期
教員氏名	渡辺 明日香、野田 美保子、瀧山 晃弘				
授業の位置づけ	ディプロマポリシーの2.「リハビリテーション分野に関わる地域や時代のニーズを的確に把握し、幅広い視野で柔軟に対応することができる。」3.「リハビリテーション分野に関する各専門の知識と技術をもって、職場や地域社会に貢献することができる。」の達成の一部を担う科目である。「健康増進分野」に位置づけ、ヘルスプロモーション学を基礎に置き、心身機能を統合した広い視野に立った効果的なリハ技術に触れ、その効果を測定する能力を高める科目である。				
授業の概要	近年、人の健康に向けた様々な支援や介入法・治療法が数多く考案され利用されている。これらの方法のうち、心身に焦点を当てたアプローチ法のいくつかを取り上げ、これらの治療メカニズムを理解するために必要な文献研究と議論を行う。また、これらのアプローチ法の効果研究に役立つ研究法を実践的に学修する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 身心の二元性・一元性を理解し、この分類におけるリハビリテーション科学の位置づけを説明できる。</li> <li>2. 心身統合アプローチ法のいくつかを挙げ、その特徴や効果を説明できる。</li> <li>3. 興味を持つアプローチ法について、その利用状況や治療メカニズム仮説などを説明できる。</li> <li>4. 心身統合アプローチ法による効果研究の研究デザイン、評価法を述べ、その一つを使用できる。</li> <li>5. ダンスムーブメントセラピー・音楽療法・感覚統合療法・健康増進活動による心身統合の効用とそのメカニズムを説明できる。</li> </ol>				
授業の方法	世界の心身統合アプローチ法を概観した上で、学生の興味が高いアプローチ法を選択して、その方法を調べ資料に基づき口頭発表したり、院生や家族などをクライアントとして実際にアプローチして主観的感想を聴きとる。また、その方法の効果について文献を収集し、エビデンスの有無を調べる。選択したアプローチ法の効果研究に役立つ評価法・測定法を調べ、評価法のいくつかを実際に用いて評価したり、測定法を実際に練習し、自分の研究テーマの解決に用いることのできる指標を吟味する能力を養う。				
ICT活用	クラウドを教員と院生が共有して文献やデータを保存し、同じ文献をともに読んだり、データの分析結果を確認し合うことのできる環境を整備する。				
実務経験のある教員の教育内容	渡辺は30数年、ダンス・ムーブメントセラピー (DMT) を多様な対象者に実施してきた認定作業療法士。DMTの効果研究やDMT指導者の力量形成研究を行ってきた。心身統合アプローチからより効果的なリハ技術を探るための、効果測定技術を指導する。 瀧山は博士(医学)、日本病理学会病理専門医・指導医であり精神科臨床医。各種国際音楽コンクールで多くの受賞歴のあるピアニスト。この経歴を生かして音楽心理学と音楽療法について教授する。 野田は作業療法士歴40年。教育活動と共に、感覚統合理論を含む作業療法、ヘルスプロモーションの視点に立つ健康増進活動に携わってきた。自らの経験を振り返り心身統合の観点から整理して提示する。				
課題に対するフィードバックの方法	講義ごとに出てくる課題に対して文献を読み合わせ、コメントしたり、討論したりする。実際に機器や道具を使って、評価法・測定法を指導する。考察の素地形成のために、実際に数種の心身技法を体験する。				
授業計画	学習内容	準備学習および必要時間(分)	事後学習および必要時間(分)		
1	オリエンテーション(渡辺) 心身統合の考え方の復習。 ダンス・ムーブメントセラピー体験。 院生による世界の心身統合アプローチ法発表。 院生の興味のある心身統合アプローチ法について探索した文献を発表、討議。	世界の心身統合アプローチ法を学生自身が探索し、文献検索する。(90分)	議論の内容をメモしておく。(90分)		
2	自律神経機能評価法：実際にハートレートモニターなどの機器で測定し、メモカルクなどの分析ソフトで解析してみる。(渡辺)	自律神経機能評価法・解析法について学習。(90分)	自律神経機能評価法について文献探索、測定結果をレポートにまとめる。(90分)		
3	自律神経機能評価法：その他の方法の体験 ローレンツプロット解析など (渡辺)	自律神経機能評価法・解析法について学習。(90分)	自律神経機能評価法(ローレンツプロット法など)について文献探索、測定結果をレポートにまとめる。(90分)		
4	自律神経機能評価法・解析法マニュアルの作成。(渡辺)	自律神経に関する読みたい文献を読み理解を深める。(90分)	測定法・解析法マニュアルを完成する。(90分)		
5	唾液で調べられる物質(渡辺) ELISA法について院生が発表。 唾液の採取法 ELISA法の実験 実験室で体験する。	唾液内の物質をELISA法で分析するための資料を収集。(90分)	ELISA法による測定についてレポートを作成。(90分)		
6	脳機能の測定(渡辺) 脳波またはfNIRSによる測定の練習	脳波またはfNIRSの測定法・解析法について調べる。(90分)	脳波またはfNIRSの測定と解析についてレポートを書く。(90分)		
7	ELISAまたは脳機能測定から1種類を選び、測定法・解析法マニュアルを作成する。(渡辺)	マニュアルを作る項目について必要事項を整理しておく。(90分)	測定法・解析法マニュアルを完成する。(90分)		

8	音楽心理学と音楽療法（瀧山） 音楽は、身体を含む物理的な次元を通して心に作用し、身心の二項対立を超越し統合するだけでなく、身心をともに脱落することによってスピリチュアルな次元にまで至る力がある。人がこの世界に生まれ、生きていく中で、そして死を迎える時、音楽はどのような意味を持っているのだろうか。音楽療法とその基礎としての音楽心理学を題材として考えたい(オンデマンドを予定)。	リハビリテーションにおける音楽の活用の現状について調べる。(90分)	講義の内容について復習する。(90分)
9	授業の進め方についてのオリエンテーション 感覚統合療法の理論について考察を深める。(野田)	感覚統合療法について調べる。(90分)	講義の内容について復習する。(90分)
10	感覚統合療法の実技を体験する。(野田)	前回の授業で提示された課題の準備をする。(90分)	講義の内容について復習する。(90分)
11	感覚統合療法による心身統合の可能性とメカニズムについて考察する。(野田)	前回の授業で提示された課題の準備をする。(90分)	講義の内容について復習する。(90分)
12	発達障害を有する子どもの感覚統合療法プログラムを考え、模擬的な実践を試みる。(野田)	前回の授業で提示された課題の準備をする。(90分)	講義の内容について復習する。(90分)
13	健康増進活動の理論について考察を深め、実技を体験する。(野田)	前回の授業で提示された課題の準備をする。(90分)	講義の内容について復習する。(90分)
14	各種体力測定方法について学び実技を体験する。(野田)	前回の授業で提示された課題の準備をする。(90分)	講義の内容について復習する。(90分)
15	健康増進活動による心身統合のメカニズムについて考察する。 地域の高齢者に対する健康増進活動の指導プログラムを考え、模擬的な実践を試みる。(野田)	前回の授業で提示された課題の準備をする。(90分)	講義の内容について復習する。(90分)

成績評価の方法		
区分	割合 (%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外（授業内の課題・参加度・出席態度等）	100	授業中の討論や実習への積極的な参加、作成した使用マニュアルまたはレポートを評価する。
その他	0	なし

教科書	特に定めない。
参考文献	ポリヴェーガル理論入門/ステファン・W・ポージェス/：春秋社，2018 心理臨床におけるからだ/目幸黙 櫻ほか/朱鷺書房，2007 その他、適宜指定。文献等を配布する。
履修条件・留意事項等	発表・討論、実習には積極的に参加すること。
備考欄	

科目名		ナンバリング	単位	配当年次	開講期
250230R1	リハビリテーション科学特別研究	6700	8		前期・後期
教員氏名	木村 一志、大川 浩子、横井 裕一郎、渡辺 明日香、佐々木 幸子、田邊 芳恵、金子 翔拓、白戸 力弥、野田 美保子、瀧山 晃弘				
授業の位置づけ	リハビリテーション分野に関する各専門の知識と技術をもって、職場や地域社会に貢献するための科目である。基本的研究能力を養い、修士論文作成や修士論文発表を行う。各専門分野の「特論」や「特論演習」と関連し、修士課程修了後のリハビリテーション研究の基礎となる。				
授業の概要	リハビリテーション科学専攻領域の講義科目・演習を踏まえ、理学療法及び作業療法における実践・研究・教育を発展させる研究課題を決定し、その課題に適した研究方法を探求し、実践して論文を作成する。				
到達目標	修士論文を作成し、修士論文審査会で発表を行い、審査に合格する。				
授業の方法	リハビリテーション科学特別研究は、1年前期から2年後期までの通年指導を受け、論文を作成し、論文審査並びに最終試験に合格した場合、8単位を一括付与する。 指導内容によってはオンラインで行う。				
ICT活用	なし				
実務経験のある教員の教育内容	木村は該当なし。瀧山は医師として、田邊、横井、佐々木は理学療法士として、大川、野田、渡辺、白戸、金子は作業療法士として勤務した経験を活かして、それぞれの専門分野について研究を指導する。				
課題に対するフィードバックの方法	研究指導教員や所属大学院生と共に研究内容の確認や討論を行い、各課題へのフィードバックを行う。また、作成した修士論文やその発表に対してコメントを行います。				
授業計画	学習内容	準備学習および必要時間(分)	事後学習および必要時間(分)		
1	(項目1と2で1年前期・90時間) 研究課題の決定を目標とする。 文献や討議等を通じて、関心のある課題の情報を収集し、研究課題の検討を行う。	研究テーマについて指導教員と打合わせを行うこと。(5時間)	さらに文献収集を行い、内容を吟味して、研究テーマについて熟考すること。(10時間)		
2	研究指導教員の指導の下に、研究テーマを1年次6月末までに研究指導教員に提出する。 その後、その研究テーマで研究を進められるかを検討していく。	研究テーマについてまとめ、プレゼンテーションの準備をすること。(10時間)	検討結果を受けて、研究テーマの修正を行うこと。(5時間)		
3	(項目3と4で1年後期・90時間) 具体的な研究テーマの決定を受け、研究指導教員の指導の下に、対象、方法、予測される研究の意義を検討しながら研究計画を練っていく。 1年次12月末までに、研究指導教員の指導の下に「北海道文教大学研究倫理規定」を遵守した修士論文作成計画書を提出する。	具体的な研究計画を練ること。(10時間)	検討結果を受けて、研究計画を修正すること。(5時間)		
4	その後、研究計画発表会に向けて、プレゼンテーション資料等を準備する。 1年次2月、研究計画を発表し、評価を受ける。 その後、評価結果に基づいて計画の修正等を行う。	研究計画書を作成し、発表会のためのプレゼンテーション資料を作成すること。(10時間)	発表に対する評価を受けて、研究計画書を修正し、再提出すること。(5時間)		
5	(項目5と6で2年前期・90時間) 研究の前段的遂行 文献の調査、先行研究の整理、仮説の設定に基づき、本研究の前段階としての予備実験や予備調査から始め、本実験、本調査などを開始する。	予備実験、予備調査の準備や本実験、本調査の準備を行うこと。(5時間)	予備実験や予備調査の結果を受けて、本実験や本調査の計画を修正すること。(10時間)		
6	本研究の後段的遂行 デザイン発表会における結果をもとに、本研究の遂行をさらに発展させ、研究のまとめにとりかかる。 公開による中間発表会開催に向け、研究の集大成としてのまとめをする。 2年次7月、修士論文中間発表会で発表する。 修士論文中間発表会では研究内容を発表し評価を受ける。指摘事項について追加実験や再分析を行い補足していく。	実験・調査結果を考察し、まとめ、中間発表会のプレゼンテーションを準備すること。(10時間)	中間発表に対する評価を受けて、仮説の修正やさらなる追加実験・再解析を検討すること。(5時間)		
7	(項目7と8で2年後期・90時間) 中間発表会の結果、追加実験や再分析の結果を考察して、論文作成の指し最終段階に入る。 2年次9月に修士論文の概要を研究指導教員に提出する。	修士論文作成の準備をすること。(10時間)	論文修正に必要な文献・資料の収集を行うこと。(5時間)		

8	その後、研究指導教員等より論文の内容に関する指導を受けながら、論文の修正を行っていく。 2年次1月に修士論文を提出する。 2年次2月に修士論文審査会で発表を行い、審査を受ける。	修士論文発表の準備、プレゼンテーション資料の準備を行うこと。(10時間)	審査会の評価を受けて、修士課程修了後の研究内容について熟考すること。(5時間)
9	なし	なし	なし
10	なし	なし	なし
11	なし	なし	なし
12	なし	なし	なし
13	なし	なし	なし
14	なし	なし	なし
15	なし	なし	なし

成績評価の方法		
区分	割合 (%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外 (授業内の課題・参加度・出席態度等)	100	研究過程と作成論文及び論文の発表により評価する。
その他	0	

教科書	なし
参考文献	課題に関する文献を随時紹介する。
履修条件・留意事項等	なし
備考欄	

科目名		ナンバリング	単位	配当年次	開講期
250230RB	リハビリテーション科学特別研究	6700	8		前期・後期・前期・後期
教員氏名	木村 一志、宮本 重範、横井 裕一郎、渡辺 明日香、高田 雄一、田邊 芳恵、金子 翔拓、白戸 力弥、湯浅 孝男、野田 美保子				
授業の位置づけ	リハビリテーション分野に関する各専門の知識と技術をもって、職場や地域社会に貢献するための科目である。基本的研究能力を養い、修士論文作成や修士論文発表を行う。各専門分野の「特論」や「特論演習」と関連し、修士課程修了後のリハビリテーション研究の基礎となる。				
授業の概要	リハビリテーション科学専攻領域の講義科目・演習を踏まえ、理学療法及び作業療法における実践・研究・教育を発展させる研究課題を決定し、その課題に適した研究方法を探求し、実践して論文を作成する。				
到達目標	修士論文を作成し、修士論文審査会で発表を行い、審査に合格する。				
授業の方法	リハビリテーション科学特別研究は、1年前期から2年後期までの通年指導を受け、論文を作成し、論文審査並びに最終試験に合格した場合、8単位を一括付与する。				
ICT活用	なし				
実務経験のある教員の教育内容	木村は該当なし。池田は医師として10年、研究所の研究職として3年、大川は作業療法士として16年、金子は作業療法士として6年、佐々木は理学療法士として11年、白戸は作業療法士として15年、瀧山は医師として9年、田邊は理学療法士として26年、宮本は理学療法士として13年、湯浅は作業療法士として12年、横井は理学療法士として17年、渡辺は作業療法士として5年、野田は作業療法士として勤務した経験を活かして、それぞれの専門分野について研究を指導する。				
課題に対するフィードバックの方法	研究指導教員や所属大学院生と共に研究内容の確認や討論を行い、各課題へのフィードバックを行う。また、作成した修士論文やその発表に対してコメントを行います。				
授業計画	学習内容	準備学習および必要時間(分)	事後学習および必要時間(分)		
1	(項目1と2で1年前期・90時間) 研究課題の決定を目標とする。 文献や討議等を通じて、関心のある課題の情報を収集し、研究課題の検討を行う。	研究テーマについて指導教員と打合わせを行うこと。(5時間)	さらに文献収集を行い、内容を吟味して、研究テーマについて熟考すること。(10時間)		
2	研究指導教員の指導の下に、研究テーマを1年次6月末までに研究指導教員に提出する。 その後、その研究テーマで研究を進められるかを検討していく。	研究テーマについてまとめ、プレゼンテーションの準備をすること。(10時間)	検討結果を受けて、研究テーマの修正を行うこと。(5時間)		
3	(項目3と4で1年後期・90時間) 具体的な研究テーマの決定を受け、研究指導教員の指導の下に、対象、方法、予測される研究の意義を検討しながら研究計画を練っていく。 1年次12月末までに、研究指導教員の指導の下に「北海道文教大学研究倫理規定」を遵守した修士論文作成計画書を提出する。	具体的な研究計画を練ること。(10時間)	検討結果を受けて、研究計画を修正すること。(5時間)		
4	その後、研究計画発表会に向けて、プレゼンテーション資料等を準備する。 1年次2月、研究計画を発表し、評価を受ける。 その後、評価結果に基づいて計画の修正等を行う。	研究計画書を作成し、発表会のためのプレゼンテーション資料を作成すること。(10時間)	発表に対する評価を受けて、研究計画書を修正し、再提出すること。(5時間)		
5	(項目5と6で2年前期・90時間) 研究の前段的遂行 文献の調査、先行研究の整理、仮説の設定に基づき、本研究の前段階としての予備実験や予備調査から始め、本実験、本調査などを開始する。	予備実験、予備調査の準備や本実験、本調査の準備を行うこと。(5時間)	予備実験や予備調査の結果を受けて、本実験や本調査の計画を修正すること。(10時間)		
6	本研究の後段的遂行 デザイン発表会における結果をもとに、本研究の遂行をさらに発展させ、研究のまとめにとりかかる。 公開による中間発表会開催に向け、研究の集大成としてのまとめをする。 2年次7月、修士論文中間発表会で発表する。 修士論文中間発表会では研究内容を発表し評価を受ける。指摘事項について追加実験や再分析を行い補足していく。	実験・調査結果を考察し、まとめ、中間発表会のプレゼンテーションを準備すること。(10時間)	中間発表会に対する評価を受けて、仮説の修正やさらなる追加実験・再解析を検討すること。(5時間)		

7	(項目7と8で2年後期・90時間) 中間発表会の結果、追加実験や再分析の結果を考察して、論文作成の指し最終段階に入る。 2年次9月に修士論文の概要を研究指導教員に提出する。	修士論文作成の準備をすること。 (10時間)	論文修正に必要な文献・資料の収集を行うこと。(5時間)
8	その後、研究指導教員等より論文の内容に関する指導を受けながら、論文の修正を行っていく。 2年次1月に修士論文を提出する。 2年次2月に修士論文審査会で発表を行い、審査を受ける。	修士論文発表の準備、プレゼンテーション資料の準備を行うこと。(10時間)	審査会の評価を受けて、修士課程終了後の研究内容について熟考すること。(5時間)
9	なし	なし	なし
10	なし	なし	なし
11	なし	なし	なし
12	なし	なし	なし
13	なし	なし	なし
14	なし	なし	なし
15	なし	なし	なし

成績評価の方法		
区分	割合 (%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外 (授業内の課題・参加度・出席態度等)	100	研究過程と作成論文及び論文の発表により評価する。
その他	0	

教科書	なし
参考文献	課題に関する文献を随時紹介する。
履修条件・留意事項等	なし
備考欄	